

目 次

はじめに	1
第 1 章 開館までの沿革	2
第 2 章 管理運営概要	4
第 3 章 事業概要	
1 常設展	8
2 開館記念展	12
3 特別展	14
4 資料紹介	19
5 資料状況	20
6 教育普及活動	22
7 日誌抄	23
第 4 章 調査研究報告	
1 美濃・飛驒の甲冑	24
2 関市倉知産材化石と関市付近の第四系	35
3 博物館学習をとり入れた学校での自然保護教育	37
4 展示見学の手びき「ここをじっくり」の実践	40
5 植物分布報告	43

はじめに

岐阜県博物館は昭和51年5月に開館した。昭和46年、置県百年の記念事業の一環として、博物館の建設が決定されて以来、5年間にわたる慎重な準備と、関係各位の絶大な御支援のもとに、20億円にあまる巨費を投じ、岐阜県における文化の殿堂として、関市にある岐阜県百年公園の一角に誕生した。以来2年有余、今日的意味を持ち、時代の要求にこたえることのできる、博物館、生涯教育の一端を担う博物館を目指して鋭意努力してきたが、草創期における理想と現実の中で、解決すべき問題も多い。

しかしながら、数回に及ぶ特別展・資料紹介の開催、及び講演会・資料鑑定研究会・自然観察会・体験学習会等を実施し、堅実な博物館活動を一步步つ歩んできた。また、資料も準備室時代から今日に至るまで、各方面から多数の寄贈・寄託を受けている。なかでも郷土の生んだ近世文人の書画が多数寄託されるなど次第に充実してきている。これはひとえに県民各位の博物館に寄せられる関心の深さと、暖かい御理解の賜物と深く感謝し、今後の精進への糧としたい。開館して間もない本館がこれまで歩みを続けることが出来たのも、県民各位のひとかたならない御支援のおかげであることは言うまでもない。更に一層県民の期待にこたえる博物館へとますます努力する覚悟を新たにしている。

遅ればせながらここに岐阜県博物館報第1号を発刊する運びとなった。建設当初からの歩みを振り返り、また研究成果の一端も記録し、今後の資とした。

その意味において多くの方々からの御叱正、御批判、御指導を賜わるようお願いする次第である。

昭和53年12月

館長 松尾克美

第1章 開館までの沿革

1. 博物館開設準備室開設まで

明治4年の廃藩置県と太政官布告によって、美濃諸藩が統一され、岐阜県が設置されてから、昭和46年11月でちょうど100年を迎えた。

この意義ある置県100年を迎えるに当たって、将来の発展に役立つ記念事業を行うため、昭和44年に県民各層の代表者による百年記念事業委員会が設置され、記念事業の項目や内容が検討された。この委員会の答申にもとづき、昭和45年に、長く後世に残る記念事業として、百年公園と博物館を建設することが決定した。

昭和46年4月から、県教育委員会社会教育課に、博物館建設準備担当者3人が配置され、具体的な準備事務に入った。

5月にときの知事、参事、社会教育課長がヨーロッパ各国の博物館を視察し、その報告を参考にしながら、8月に博物館の性格、規模、年次計画等を総括した博物館基本構想案をまとめた。

この基本構想案に県民各層の意見を反映すべく、県議会、教育界、文化団体などの代表からなる博物館懇談会を設け、9月、10月の2回にわたり意見を求めた。その結果、当初は総合歴史博物館であったものが、人文・自然両分野の総合博物館への要望が打ち出され、それらをもとに、博物館基本構想を10月に決定、11月22日に岐阜県百年記念式典が挙行された際に、博物館建設概要を発表した。

この基本構想を具体化するために、11月に岐阜県博物館特別専門委員会を、施設部門と展示部門に分けて組織した。施設部門においては、施設・設備等について検討し、また、京大教授上田篤氏より博物館の施設内容のあるべき姿について指導を受け研究を重ねた。展示部門では、展示の基本方針、資料の選定等について検討を重ね、東京国立博物館石田尚豊氏に最近の博物館の傾向及び今後のあり方についての示唆をいただき、展示計画等の立案をすすめた。

11月に博物館建築基本設計を株式会社日建設計に委託契約し、12月から基本設計案について検討協議を重ね、翌年3月末に完成するまで約10回設計者との打合せ会をもった。

これに並行して、展示基本構想の具体的立案にかかり、県下教育事務所ごとに、人文・自然の両分野の代表者（8人×6地区=48人）と地区別懇談会を2月に行い、展示内容、展示資料の所在等について意見を聴取し、展示基本構想の中へ反映していった。

3月末日、建築基本設計が出来あがった。それは現在みられる六角形を基調とする群構成による近代的な建物で、将来への夢と希望をいだかせるに十分なものであった。まさに具体的なものへの第一歩であった。

2. 博物館開設準備室

(1) 昭和47年度

4.1 博物館開設準備室設置（後藤室長以下8人）

6.6 展示部門特別専門委員会開催

6.29～7.6 地区懇談会を各地区で開催

8. 博物館建築実施設計を株式会社日建に委託

9.13～18 建築内部設計担当者県内視察

10.11～12.24～25 県外博物館視察

12.5～7 内部設計打合せ

2. 博物館敷地造成設計を株式会社日建に委託

2.27 特別専門委員会（展示人文部門）

3.6 特別専門委員会（展示自然部門）

3.15～17 県外博物館視察

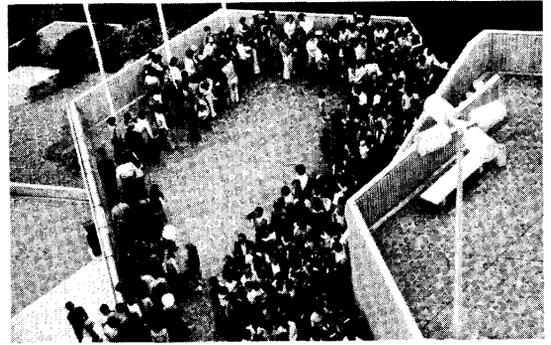
3. 博物館建築実施設計及び敷地造成設計完了



(本館工事中)



(開館式典)



(開館当日の入館風景)

(2) 昭和48年度

- 4.1 準備室員10人に増員
- 5.8~9 東京国立博物館等で資料整理法調査
- 6.18 知事に進捗状況説明
- 〃 岐阜県博物館建設工事入札
- 7.10 建設工事本契約締結
- 8.9 建設起工式挙行
- 8.30 展示工事費見積依頼
- 9.2 展示基本計画決定
- 9.12 資料収集協力員要綱策定
- 9.26 展示費について教育長ヒアリング
- 10.28 資料収集協力員委嘱
- 11.30 展示資料製作検討開始
- 12.4 県文化財保護協会への説明会開催
- 1.8 展示基本計画を県下市町村・高校・文化団体へ発表
- 1.17~ 資料協力員打合せ
- 2.1 知事査定により展示費4億円と決定
- 3.31 建設出来高率 約22%

(3) 昭和49年度

- 4.9~ 建築現場打合せ
- 5.4~ 資料調査収集開始
- 6.14~16 県外博物館視察
- 6.14 展示基本実施設計を日本博物館協会に委託
- 6.17 教育長博物館建築状況視察
- 7.16 岐阜県博物館開設準備室だより第1号発行
- 7.24 資料収集協力員打合せ
- 7.30~ 建築展示現場打合せ
- 9.20 展示基本設計完成
- 9.20 特別専門委員会(展示部門・基本設計)

- 10.3 美濃国分寺復原模型等の製作業務を京都科学標本株式会社へ委託
- 10.29 博物館定礎式
- 12. 展示実施設計完了
- 1.1 準備室だより第2号発行
- 3.7 人文展示室の展示工事を株式会社乃村工芸社、同工事の監修を日本博物館協会に委託
- 3.20 自然展示室の展示工事を株式会社丹青社に、同工事の監修を日本博物館協会に委託

(4) 昭和50年度

- 4.1 準備室員増員
- 5.21 はく製・生物標本等の製作・採集委託
- 5.26 警備防災設備工事委託
- 6.9 展示実施設計の変更設計の委託
- 7.11 本館建築竣工
- 8.21 人文・自然展示室展示工事の変更施工業務委託
- 10.1~ 模型、複製等製作委託
- 11.18 展示室室名板、陶壁画等製作委託
- 12.19~ 展示工事現場打合せ
- 12.20 仏像等複製製作委託
- 1.1 準備室だより第3号発行
- 1.10 庭園工事委託
- 1.12 人文、自然、郷土学習室展示設備等委託
- 2.16 自然観察のこみち植栽等委託
- 3.15 人文、自然展示解説板等製作委託
- 3.29~30 県庁より博物館に庁用機具移転

(3) 博物館協議会委員 (アイウエオ順)

◎印…会長 ○印…副会長

氏名	住所	現職	備考
江崎 芳郎	岐阜市加納東丸町2-67	校長	岐阜市立徹明小学校
尾関 正爾	羽島郡川島町松倉町1384	町長	羽島郡川島町
坂倉 又吉	羽島市竹鼻町2733	取締役社長	千代菊(株)
高木 義明	岐阜市近島447-2	校長	岐阜市立長良中学校
玉田 幸人	岐阜市萱場町中起599-11	専務・編集局長	岐阜日日新聞社
○土屋 齐	大垣市荒尾町1077	取締役頭取	(株)大垣共立銀行
野村 忠夫	名古屋市千種区希望ヶ丘4	教授	岐阜大学教育学部
◎林 金雄	各務原市那加雲雀町37	〃	大垣女子短期大学
深井 重三郎	岐阜市鏡島西菖蒲池1621	理事長	学校法人佐々木学園
堀 房夫	岐阜市加納栄町通6丁目8	校長	県立岐阜高等学校

2. 予算

予算の概要

(単位千円)

区分	内訳	年度	昭和46~50年度	昭和51年度	昭和52年度
歳入	博物館使用料		—	7,158	12,308
	雑入		—	273	265
	合計		—	7,431	12,573
歳出	博物館建設事業費	建築関係	1,474,317	—	—
		展示関係	293,765	96,947	—
		その他	71,172	22,575	—
		計	1,839,254	119,522	—
	博物館管理運営費	開館式典費	—	585	—
		運営費	—	19,926	20,401
		施設管理費	—	51,907	61,544
		博物館協議会費	—	96	205
		計	—	72,514	82,150
	博物館事業費	常設展示費	—	17,246	10,635
特別展示費		—	4,287	5,505	
資料集収管理費		—	935	1,100	
教育普及活動費		—	281	800	
	計		22,749	18,040	
	合計		1,839,254	214,785	100,190

3. 入館状況

(1) 昭和51年度

岐阜県博物館条例によって昭和51年4月1日に設置され、同年5月5日（こどもの日）に開館した。開館後半年間は無料公開とされ、この期間中（5月5日～9月30日）の入館者総数は本年度の総数の約65%（118,460人）を占めた。開館時には開館記念展として「郷土巨匠三人展」、「郷土スポーツ栄光展」、夏には特別展「ふるさとの文楽」などが、季節的にも人の出足をさそった。

開館日数は269日で1日平均675人の入館実績を得た。8月末には待望の10万人目を数えたが、年間入館者総数は181,692人、月平均15,141人、1日平均675人であった。

月別では下表の通りであるが、入館者は5月・8月・10月に集中し、12月・1月・2月の冬期は極端に減少した。

ア. 博物館入館着数

月別	小中生	高大生	一般	計	開館日数	1日平均
5月	11,173 ^人	6,427 ^人	16,172 ^人	33,772 ^人	23 ^日	1,468 ^日
6月	6,263	3,456	14,039	23,758	26	914
7月	6,333	1,486	12,015	19,834	27	735
8月	9,351	1,690	13,994	25,035	26	963
9月	5,693	713	9,611	16,017	24	667
10月	12,829	3,017	10,043	25,889	26	996
11月	6,980	2,323	8,951	18,254	23	794
12月	524	134	1,919	2,577	23	112
1月	888	165	2,488	3,541	22	161
2月	539	116	2,634	3,289	23	143
3月	3,296	455	5,975	9,726	26	374
合計	63,869	19,982	97,841	181,692	269	675

イ. 特別展観覧者数

特別展名	期間	小中生	高大生	一般	計
ふるさとの文楽	51.8.1～51.8.31	3,059 ^人	566 ^人	5,283 ^人	8,908 ^人
熊谷守一	51.11.1～51.11.30	982	1,072	3,242	5,296
合計		4,041	1,638	8,525	14,204

(2) 昭和52年度

今年度の入館者総数は 111,461 人で、月平均は 9,288 人となった。また年間の開館日数は 296 日で、1 日平均の入館者数は 377 人である。

月別の入館状況は下表の通りであるが、月別で見ると 5 月が最も多く、次いで 10 月、11 月とつづいている。これは小中学校の団体入場がこの時期に集中するため、この 3 か月で実に年間のほぼ

半分弱の入館者数となった。

更に曜日別に入館状況を分析すると、個人入館者では日曜日がだんぜん多く、1 週間の 65.6%、その他はほぼ平均しているが、木曜日が 5.2% と最も少ない。団体では大体平均しているが、火曜日、日曜日、木曜日の順となり、土曜日が 5.2% と最も少ない。

ア. 博物館入館者数

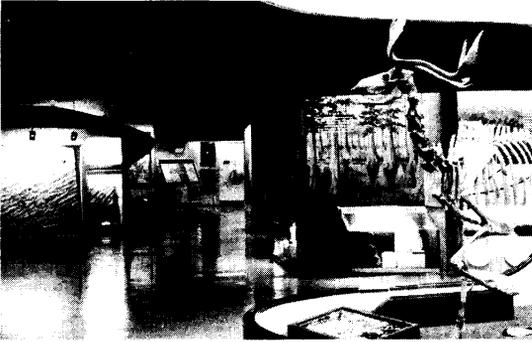
月 別	小 中 生	高 大 生	一 般	計	開館日数	1 日平均
4 月	4,809 人	1,250 人	6,750 人	12,809 人	25 日	512 人
5 月	6,693	3,020	9,638	19,351	26	744
6 月	2,329	973	5,576	8,878	26	341
7 月	2,101	740	3,452	6,293	27	233
8 月	3,924	843	5,373	10,140	26	390
9 月	3,379	274	5,512	9,165	24	382
10 月	9,896	1,963	6,669	18,528	25	741
11 月	6,754	427	7,181	14,362	24	598
12 月	358	85	1,328	1,771	22	81
1 月	456	81	1,313	1,850	22	84
2 月	320	105	1,433	1,858	23	81
3 月	2,310	378	3,768	6,456	26	248
合 計	43,329	10,139	57,993	111,461	296	377

イ. 特別展観覧者数

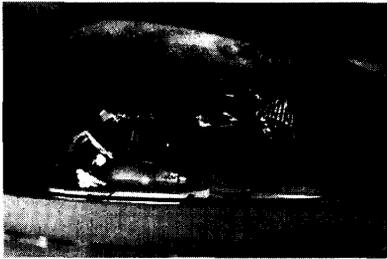
特 別 展 名	期 間	小 中 生	高 大 生	一 般	計
日本伝統工芸秀作展	52.5.3~52.5.29	1,244 人	1,526 人	2,495 人	5,265 人
郷土の化石展	52.7.21~52.8.31	3,538	1,001	3,822	8,361
鉄 齋	52.10.28~52.11.23	1,765	309	4,403	6,477
合 計		6,547	2,836	10,720	20,103

第3章 事業概要

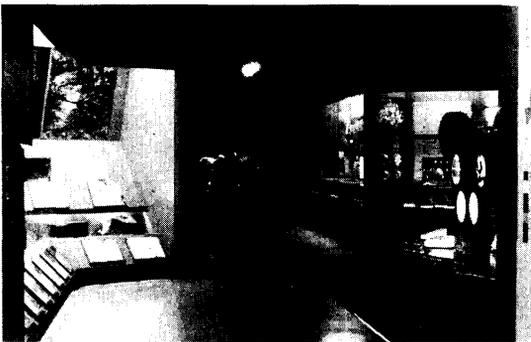
1. 常設展



自然展示室1 (ヤベオオツノジカ全景)



(デスモスチルス)



自然展示室2 (系統樹あたり全景)

(1) 自然展示室

自然展示室は2つの展示室により構成されている。自然展示室1は、郷土の自然とそのおいたち、及び、人と自然の関係をテーマとして、ひとつの流れのもとに展示を行い、自然展示室2は、岐阜県の特徴ある動物、植物、岩石、鉱物等について、15のコーナーに分けて、個々にまとまりのある知識が得られるような展示とした。

ア. 展示のねらい

(ア) いくつかの例を示すことによって、岐阜県の子然の大略がつかめるようにする。

(イ) 自然界の秩序ある調和の姿を正しく知るだけでなく、みずから考える場としての展示とする。

(ウ) すすんで屋外の子然にふれ、問題意識を持って研究しようとする意欲のわく展示とする。

イ. 展示の方法

(ア) できるだけ自然のままの姿を再現する。

(イ) 視聴覚機器を導入し、理解を容易にし、光と音と動きによって、感動と迫力を与え、展示の目的を十分果たすようにする。

(ウ) 学術的研究にもとづき、わかりやすく、まとまった展示とし、解説文は短くする。

(エ) 資料の単なるら列ではなく、ストーリーのある展示とする。

(オ) 生涯教育の場として、幅広い層に親しまれる展示とし、中学校程度の学力と理解力を標準として、わかりやすいものとする。

(カ) 解説指導により、討論の場となるような展示とする。

以上のような考えのもとに展示構成を行ったが、更に一層わかりやすく、かつ親しみやすい展示となるよう今後、研究努力していきたい。

(2) 人文展示室

自然展示と同じく人文展示も2つの展示室から構成されている。人文展示室1では、「郷土のあゆみ」をテーマとして、郷土の生いたちと歩みを時代を追って展示し、岐阜県の歴史を通史的に概観できるものとし、展示室2では、郷土の優れた美術品及び特色ある工芸品を体系的に分類、展示して理解と関心を深めようと意図したものである。したがって人文展示室1・2によって、岐阜県の歴史の流れと文化の特性とを、総体的に把握理解できるようにした。

なお以下人文展示室1・2の「展示のねらい」及び「展示の方法」に関する基本的方針を下記にする。

・人文展示室1

ア. 展示のねらい

(ア) 岐阜県の恵まれた飛山濃水の自然のなかで、先人が築きあげてきた郷土の歴史が展観できるものとする。

(イ) 過去の歴史を知るだけでなく、展示をとおして学ぶ意欲をよびおこすような展示とする。

イ. 展示の方法

(ア) 厳密な考証と研究にもとづく正確性を期し、平易な表現方法を用い、しかも来館者に歴史との出会いの感動をいだかせるものとする。

(イ) 表現方法は実物資料とあわせ、模型・複製・複製品等を用いて効果的に表現し、感動



(人文展示室1)

と迫力を与えるような視聴覚的技法を積極的に導入し、臨場感に富む展示構成とする。

・人文展示室2

ア. 展示のねらい

(ア) 郷土の優れた美術工芸品を鑑賞できるようにする。

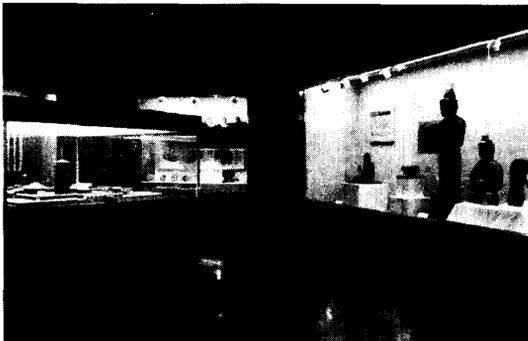
(イ) 単に作品を鑑賞するだけでなく、更に美術品のうちに宿されている先人の創意工夫を考える場とする。

イ. 展示の方法

(ア) 郷土の特色を示す古美術や美濃焼、刀剣などの美術工芸を課題として、実物資料を中心に体系的に分類し展示する。

(イ) 資料内容によっては、一定期間において交替し、バラエティーに富んだ展示とする。

以上展示を貫く基本理念によっても明らかなように、本展示は郷土の歴史の流れ及び文化の特性はもちろん、一点一点の資料のもつ価値と意味が、より平易にわかりやすく理解できることを主眼とし、かつその資料に対する専門的視野からの追求をも充足できることをねらいとしたものである。

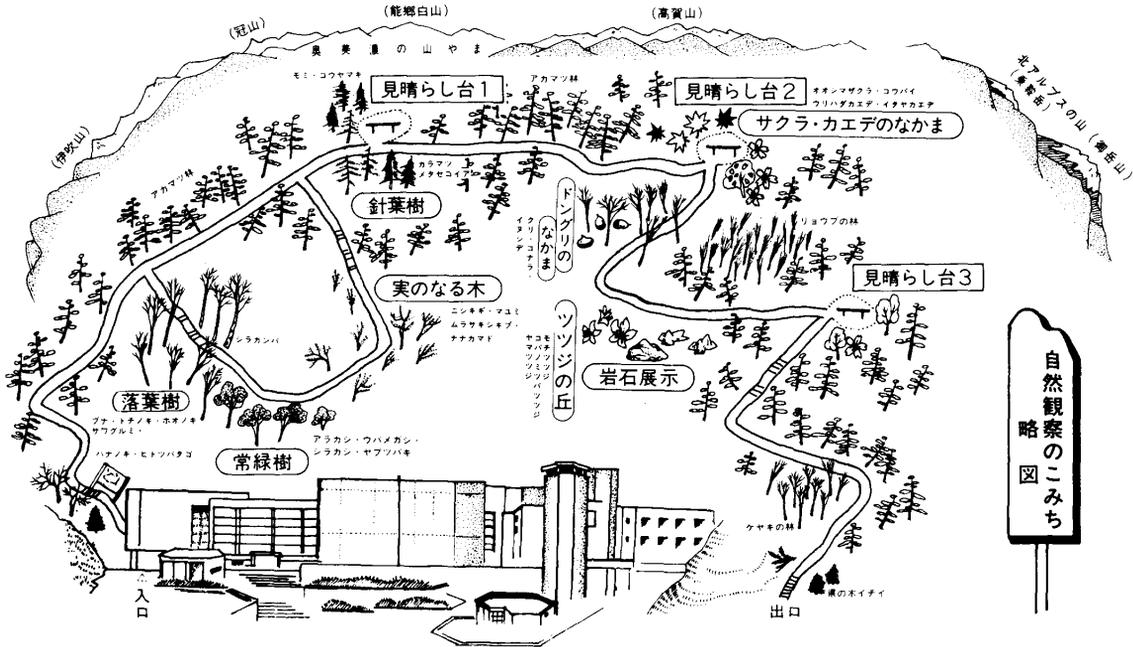


(人文展示室1)



(人文展示室2)

(3) 自然観察のこみち



自然観察のこみち一帯は、高木層にアカマツを主とし、タカノツメ・アオハダ・リョウブ、低木層にヒサカキ・シャシャンボ・サカキ・ツツジ類、草本層にシシガシラ・コシダ・オオバトンボソウなどが見られる都市近郊農村地帯の典型的な森林である。優れた都市近郊のグリーンベルトであったことから考えると、人間社会の歴史を植物的に表現しているもので、自然とヒトのかかわりを中心課題に、自然観察会などをすすめるとき、それなりに、絶好の教材の場の一つでもある。

また、確認された野鳥も、個体数の多い順にあげると、ホオジロ・カシラダカ・エナガ・シジュウカラ・ムクドリ・キクイタダキ・コガラ・ヒガラ・トビ・カラス・メジロ・キジバト・ヒヨドリ・ツグミ・コカワラヒワ・カケス・モズ・ウグイス・

ヤマガラなど、都市近郊にあって、四季折々の探鳥会などにも利用できる。

自然観察のこみちに沿った各所には、以上のようなこの地に自生している植生に加えて、略図に示したように、ブナ・トチノキ・サワグルミ・オニグルミなどの落葉広葉樹、シイ・カシ類やヤブツバキなどの常緑広葉樹、小鳥が好む実のなる木、サクラやカエデ・ツツジのなかま、それに岐阜県にゆかりの深い特殊分布のヒトツバタゴ・シデコブシ、ハナノキなども意図的に植栽している。またツツジの丘などには県内産の主な岩石が置かれ、三か所の見晴らし台からは、伊吹山をはじめ奥美濃の山々、それに御岳山、乗鞍山を遠望でき、やすらぎといこいの場ともなっている。

(4) 郷土学習室



(郷土学習室)

博物館は観覧者が展示を見て抱いた疑問・問題に解答しなければならないし、博物館資料をはじめ広く文化や自然についての質問にも適切な指導・助言ができるようであればならない。それでこそ近代的な博物館である。岐阜県博物館ではこれらの要請にできるだけこたえるように様々な施設・設備を備えている。その中に郷土学習室と図書資料室とがある。

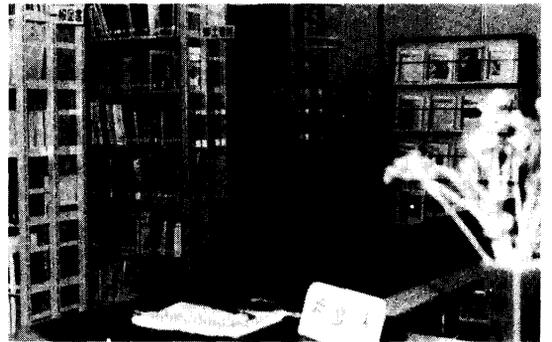
郷土学習室は児童・生徒が自由に楽しく学習できる場である。展示室では手に触れることのできない資料も、ここでは自由に手にとって、物の感

じを直接体験できる。また自由に本を引き出して勉強し、問題点を解決していくこともできる。中央のカウンターには解説員を常駐させてあるので疑問点はいつでも気楽に質問できる。配備してある資料は、図書・実物・標本・模型・スライド・写真など多岐にわたっている。児童用図書は約600冊、各種辞典をはじめ展示資料に直接関係のある本が備えてある。標本には岐阜県に生息する動植物の資料として、昆虫標本・陸貝標本・腊葉標本・木幹標本、及び、地学関係の岩石標本と全国でも屈指の化石標本を示すように各種の化石標本などがある。約8万分の1の縮尺である岐阜県地勢模型は、地勢はもちろん、交通網などが一目でわかる。これとほぼ同縮尺のアーツ衛星から撮影した岐阜県の写真と隣り合わせに配置してあり、両者を対比して学習ができる。また岐阜県の自然や歴史・地理・美術工芸に関するスライド、更には地理学習パネル・鳥類パネル・石器土器の模型なども配置してある。

今後はこれらの資料の質量とも一層の充実を図るとともに、活用方法の検討を加えていきたい。

(5) 図書資料室

図書資料室は研究者・学校・一般の利用者及び学芸員の調査研究の場である。従来の博物館の図書室は一般的に館内学芸員用であった。しかし当館では一般に開放している点が大なる特色であり、更に利用者が自由に図書を閲覧できるように開架式にしてある。また他の博物館、研究機関等との交流の窓口でもあり、入手した情報・資料はここに整備されている。文献は館内閲覧が原則であるが、館外貸出も要求に応じて行っている。配架資料は図書が中心で、岐阜県関係約1600冊、その他一般が約2500冊、計約4100冊を所蔵している。ほかに分野別に分類された新聞のスクラップをはじめ、スライド・写真・映画・ビデオ等の資料もある。



(図書資料室)

今後も文献の充実を図り、情報提供がより十分にできるようにしたい。

2 開館記念展

・郷土巨匠三人展



(開館ポスター)



(郷土巨匠三人展)

郷土岐阜県が生んだ偉大な芸術家のうち、芸術文化勲章を得た川合玉堂、前田青邨、荒川豊蔵三氏の作品を一堂に集めた『郷土巨匠三人展』を、岐阜県博物館の開館記念展として開催した。

「自然と人間の世界を思慕してうたいつづけた最後の画人」と評される川合玉堂は、室町水墨画と狩野派の伝統を受けつぎながらも、それにとられない玉堂芸術を完成させた。それは代表作、「彩雨」に見事に表現されているが、「鶉飼」「寒山拾得」「雑木山」など26点を展示した。

前田青邨の芸術は有名な素描の卓抜さを基礎にして、極めて高い安定度の中で堅実な画風を作りあげている。大和絵歴史画を根底にしながらも、作域は肖像画・風景画・花鳥画に及び、題材は日本はもとより、朝鮮・中国・西洋にまで広がっている。「観画」をはじめ、郷土を素材にした「郷土の先覚」「鶉飼」など20点を展示したが、「郷土の先覚」は青邨独特の線画が見事に生かされている。

志野・黄瀬戸・瀬戸黒で重要無形文化財保持者（人間国宝）の荒川豊蔵は名実ともに志野の第一人者として今日でも“荒川志野”の創作に意欲的にとりくんでいる。やわらかい感じの白さとそのところどころに緋色と称する赤味があたたかくにじみでている志野を中心に、瀬戸黒・黄瀬戸の代表作16点を展示した。

展示作品は全部で62点、いずれも逸品ぞろいで今後これだけのものが一堂に集まることはまずないと考えられる。ただ、この展覧後の昭和52年10月に前田青邨画伯が亡くなられたことは悲しみにたえない。ここに謹んで哀悼の意を表するものである。

展示品目録

● 川合玉堂

- ・川 風
- ・鶴 飼
- ・秋溪帰樵
- ・茶 摘
- ・彩 雨
- ・雑 木 山
- ・鶴 飼
- ・古駅雪雷
- ・鮎 釣
- ・檜の紅葉
- ・湖亭銷暑
- ・朝陽雙鶴
- ・茶 摘

● 前田青邨

- ・鶴 飼
- ・紅 梅
- ・白 頭
- ・観 画
- ・三 日 月
- ・矢 合
- ・三 盃 壺
- ・紅 白 梅
- ・花 鳩
- ・牡 丹

● 荒川豊蔵

- ・赤絵 桃花流水 水指
- ・瀬戸黒 茶碗
- ・志野 茶碗
- ・黄瀬戸 花生
- ・志野 蕨生の絵 茶碗
- ・染付 角鉢
- ・志野 茶碗
- ・志野 徳利
- ・志野 盃
- ・黄瀬戸 茶碗
- ・志野 梅の絵 茶碗
- ・瀬戸黒 茶碗
- ・志野 水指
- ・志野 玉堂の絵 茶碗
- ・志野 宮様の絵 茶碗
- ・志野 筍の絵 茶碗

・郷土スポーツ栄光展

私たちがより豊かな生活をめざすために、文化というものを幅広く考えていくうえで、岐阜県博物館の開館記念展としてすぐれた芸術を紹介するとともに、文化遺産として県下のスポーツ界をとりあげた。

岐阜県にはオリンピック選手としてベルリン大会の水泳 200 m 平泳ぎで優勝した兵藤（前畑）秀子、ヘルシンキ大会の陸上棒高跳びで 6 位に入賞した沢田文吉、この両選手を筆頭に、オリンピック・極東・東亜・アジア大会というビッグ大会で活躍した選手が数多い。『郷土スポーツ栄光展』では、これらの国際大会で入賞を果たした 37 人について、その成果と栄光のメダル、トロフィー、そして絶ゆまぬ努力のあとをしのばせる汗と泥にまみれたユニフォームなどを、選手別に展示した。郷土のスポーツ界で第一人者として活躍してきた選手のあとをふりかえり、これからの岐阜県を支える若人たちに、夢と希望を与える機会になればとの願いもこめて展示した。“前畑ガンバレ”のあの実況録音も会場に流され、当時の感動を再現するとともに、展示の趣旨を見る人に訴えた。



(郷土スポーツ栄光展)

3. 特別展

(1) 昭和51年度

ア. ふるさとの文楽(8月1日~31日)

人形浄瑠璃は古い歴史をもち、庶民文化として多くの人々に愛され親しまれてきた。県内においても中山道をはさみ古くは約300年前から各地に伝わり、その地域独特の文化として栄え、今日まで伝統芸能又は資料として伝承されている。

現在では本巢郡真正町の真桑文楽、瑞浪市日吉の半原人形浄瑠璃、中津川市川上の恵那文楽が後継者問題をかかえながらも毎年神社の祭礼に奉納上演されている。養老町室原には室原文楽、大野町民俗資料館には八木文楽、恵那市には大井文楽、関市富野には乙女文楽のそれぞれの歴史を持った貴重な人形首・衣装類が保存されている。

これ等の資料の中には名工天狗屋久吉・近藤弁吉・人形富・由良亀・吉田八十八・大江万造・吉田金吾などの刻印・墨書銘の人形首や、桐竹門蔵作の人形の手(琴手)など貴重なものが多く含まれている。

ふるさとの文楽展では古来伝統芸能として今に伝わる人形の一人遣い・三人遣いのそれぞれの文楽を対象として資料の撰択をし総合的に展示をした。現在上演されている文楽においても、前述したように後継者問題は大きな課題となっている。ともすると消え去ろうとする伝統芸能の中において、芸術性を豊かにたたえた人形首等、文楽関係の資料を展示した。その文化と美を味わうとともに、そのすばらしさを見直すことは今日意義深く、その底に流れる人間の心をさぐり、伝承されてきた文化に対する認識を深めようとしたものである。



(ふるさとの文楽)

なお、本展にさいし特に半原人形浄瑠璃、真桑文楽の方々の好意による解説と実演がなされ、多くの観覧者が直接文楽の一端に肌で接し多くの感銘を受けたことは、本展の意義と併せ誠に幸いであった。

展示品目録

- ☆真桑文楽 本巢郡真正町
 - 「伽羅先代萩」九段目政岡忠義の段 情景展示 浄瑠璃本「鎌倉三代記」他1点
 - 大道具 襖(ばたんの図)
 - 小道具 平敦盛之馬他5点
 - 鼓、締太鼓、拍子木とつけ板
 - 人形首 大蟹、お福他6点 人形 八百屋お七 裸人形(三人遣)、女肩板
 - 人形の手 桐竹門蔵作琴手他5点
 - 人形の足 くつ足他2点
 - 人形遣い手 下駄、衣裳黒子
 - 文書資料 明治32年真桑人形郷土芸術賞他1点
- ☆半原文楽 瑞浪市日吉町半原
 - 「絵本太功記」十段目尼ヶ崎の段 情景展示 浄瑠璃本「太功記本能寺」他2点
 - 三味線・鼓・小太鼓他2点
 - 人形首 由良亀作他6点
 - 人形 弁慶、謙信
- ☆恵那文楽 中津川市川上
 - 「奥州安達ヶ原」三段目袖萩祭文の段 情景展示 人形首 人形富作眠り娘、丁稚他5点
 - 人形 舌出し三番叟
- ☆大井文楽 恵那市大井町
 - 人形首 天狗屋久吉作他9点
 - 人形 皐月
- ☆乙女文楽 関市富野
 - 人形首 八汐、判官、もろとう
 - 人形 沢市、お里他1点
- ☆八木文楽 揖斐郡大野町
 - 人形首 5点
 - 人形首内部構造を示す資料5点
- ☆室原文楽 養老郡養老町
 - 小道具 屏風、鎧櫃他2点
 - 人形首 5点 人形 3点

イ. 熊谷守一展 (11月2日～30日)

昭和52年8月1日、郷土の生んだ洋画壇の巨匠熊谷守一は逝った。画壇の仙人とも超俗の画人ともいわれ、その純朴な画風と俗心を超越した生活は、現代社会の大きな清涼剤でさえあった。

本展が奇しくも、氏存命中における最後の熊谷守一展となった。

彼の80年におよぶ長い制作活動にあっては、その分野は油絵、日本画、書などと幅広く、いずれもが人柄のじみ出た、天性を示すものばかりであるが、本展では、その制作活動の中心である油絵にポイントをおき、青年期の作品から順次変遷してゆく画業の全貌を展覧しようとした。

それは東京美術学校卒業制作の“自画像”や出世作の“ローソク”などの重厚な写実による明治期の作品にはじまり、木曾での“馬”や二科会に所属したころの“赤城の雪”などの印象派風の犬正期の作品。画風が一変しフォービズム風な“横の裸”などの昭和初期の作品。昭和15年ころから、色彩・形態を単純化し大きな色面と東洋風の輪郭線による独自の画風を示す“ヤキバノカエリ”、戦後ますます純化した画境を示す“猫”、それに最晩年の“老農夫”、“枯木”などである。

これらの作品から、彼の鋭敏な自然に対する観察から得た冷厳な自然の秩序と、その対象から呼びさまされた精神を合致させ、画布へ定着した熊谷芸術の真髓の一端を示すことができた。



(熊谷守一展)

展示品目録

No.	題名	制作年
(油絵)		
1	自画像(卒業制作)	1904 (M・37)
2	半裸婦	1904 (M・37)
3	横向裸婦	1904 (M・37)
4	ポプラ秋景	1905 (M・38)
5	ローソク(第3回文展)	1909 (M・42)
6	ランプ	1910 (M・43)
7	馬	1910 (M・43)
8	父	1910 (M・43)
9	甥	1913 (T・2)
10	赤城の雪	1916 (T・5)
11	秀子夫人像	1918 (T・7)
12	松	1925 (T・14)
13	向日葵	1928 (S・3)
14	横の裸	1930 (S・5)
15	炉辺の女	1933 (S・8)
16	海岸風景(大島)	1935 (S・10)
17	吉田富士	1936 (S・11)
18	長良川	1936 (S・11)
19	安良里港	1940 (S・15)
20	金魚	1940ころ
21	海	1940ころ
22	鉢山	1943 (S・18)
23	ヤキバノカエリ	1947 (S・22)
24	化粧	1956 (S・31)
25	あじさいと鶏	1957 (S・32)
26	朝陽	1958 (S・33)
27	猫	1959 (S・34)
28	雪	1959 (S・34)
29	はだか立像	1959 (S・34)
30	紅葉	1961 (S・36)
31	椿	1961 (S・36)
32	たたみ	1962 (S・37)
33	坐裸婦	1963 (S・38)
34	きんけい鳥	1966 (S・41)
35	枯木	1966 (S・41)
36	老農夫	1968 (S・43)
37	ざくろ	1972 (S・47)
38	獅子頭	1972 (S・47)
(日本画)		
39	かたつむり	1972 (S・47)
40	柿	1973 (S・48)
41	檜林	1975 (S・50)
(書)		
42	五風十雨	1976 (S・51)
(彫刻)		
43	はだか	1952 (S・27)
44	裸婦	1952 (S・27)
45	臥裸婦	1955 (S・30)

(2) 昭和52年度

イ. 日本伝統工芸秀作展(5月3日~29日)

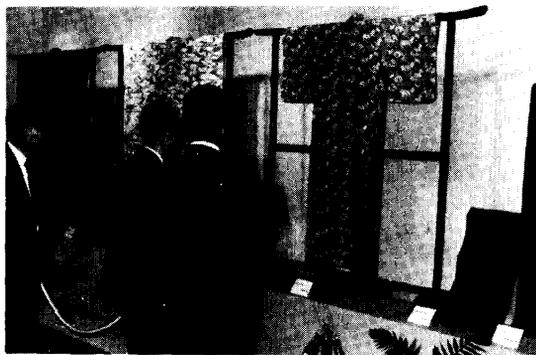
日本の工芸技術の伝統は、世界の中でも特にすぐれたもので、その種類は豊かで技術的にも多岐にわたり、かつ高度の発展をとげてきた。

その伝統工芸のよさを広く県民に紹介し、無形文化財の保護と育成を一層強力に推し進めてゆくために、文化庁の後援により開館一周年を記念して開催した。

展示内容は、陶芸・染織・漆芸・金工・木竹工・人形の各分野で86人の重要無形文化財保持者の制作した作品112点を展示した。日本の風土の中で長い歴史に培われた伝統工芸が現代に生き続けていることをみることができた。

陶磁器の土と火と釉と文様のもつ美しさ、漆器の緻密な味わい、金工の素地のもつ深い味わいなど、身近に息づく伝統工芸の香り高い芸術性と親密感は見るものに深い感銘を与えた。

なお、5月5日には東京芸術大学教授前田泰次氏を招き、「日常生活の中に見られる工芸美の伝統について」の講演会を催し、更に会期中「色鍋島」・「蒔絵」等の伝統工芸技術映画を上映し、伝統工芸理解への資とした。



(日本伝統工芸秀作展)

展示品目録

- 陶芸
 - ・紅志野茶碗他1点(荒川豊蔵)・柿釉壺他3点(石黒宗麿)
 - ・色鍋島更紗文大皿(12代今泉今右衛門)
 - ・色絵かるかや文鉢(13代今泉今右衛門)
 - ・砧青磁筒花生(宇野宗讓)・灰釉流懸大平皿(江崎一生)
 - ・白磁牡丹文大鉢(奥川忠右衛門)・油滴天目大鉢(加藤幸兵衛)
 - ・萌葱金襴手丸筥他6点(加藤土師爾)
 - ・備前焼大鉢他1点(金重陶陽)・祥瑞みかん形水指(川瀬竹春)
 - ・古上野種平鉢(高鶴元)・染付柘榴文壺(近藤悠三)
 - ・色絵草花文蓋物(12代酒井田柿右衛門)
 - ・柿右衛門濁手草花文大鉢(13代酒井田柿右衛門)
 - ・萩焼茶碗(14代坂倉新兵衛)・青磁大鉢(清水卯一)
 - ・黒陶梅文大皿(田村耕一)
 - ・赤地金銀彩羊歯文飾壺(他6点)(富本憲吉)
 - ・唐津水指他1点(中里無庵)・青釉十文字大鉢他1点(浜田庄司)
 - ・備前大徳利形壺(藤原啓)・備前鉢(藤原雄)
 - ・萩焼水指他1点(三輪休和)
- 染織
 - ・木綿地型絵染壁掛「竹取物語」(稲垣稔次郎)
 - ・献上博多帯(小川善三郎)・紅型竹文麻地夏長着(鎌倉芳太郎)
 - ・斑金錦牡丹唐草文帯(喜多川平朗)
 - ・縮緬地友禅あおい文振袖(木村雨山)
 - ・精好仙台平「利久」(甲田榮佑)
 - ・江戸小紋着物「似たり大小島津」(小宮康助)
 - ・長板中型蛤文浴衣(清水幸太郎)・繪織着物「澤」(志村ふくみ)
 - ・一越縮緬地型絵染着物「松」(鈴木照次)
 - ・手織木綿地型絵染着物「壺屋」(芹沢鈺介)
 - ・芭蕉布縮緬着物(平良敏子)・友禅黒留袖「青雲」(中村勝馬)
 - ・友禅訪問着「桂垣」(森口華弘)
 - ・有松鳴海絞裏取蜘蛛浴衣他1点(愛知県絞技術保存会)
 - ・鑄入綿生平着尺他1点(越後上布小千谷縮布技術保存協会)
 - ・久留米緋古城文着尺他1点(重要無形文化財久留米緋技術保存者会)
 - ・平結城亀甲緋着尺160通他1点(本場結城紬技術保存会)
- 漆芸
 - ・曲輪造朱食籠他1点(赤地友哉)
 - ・きんま草花文八角食籠(磯井如真)
 - ・きんま陽炎盆(磯井正美)
 - ・金銀平文千羽鶴の箱(大場松魚)
 - ・彫漆貝母文菓子器他1点(音丸耕堂)
 - ・堆漆茶入(音丸淳)・螺鈿鷺文漆箱(片岡華江)
 - ・乾漆竹菓子器他1点(高野松山)
 - ・蒔絵水鏡水指他1点(田口善国)
 - ・三彩茶入(田所芳哉)・沈金芒絵飾箱(前大峰)
 - ・髹飾線文盛器他1点(増村益城)
 - ・蒔絵螺鈿有職文飾箱他2点(松田権六)
 - ・乾漆千段巻中次(松波保真)
- 金工
 - ・鍛鉄銚子(井尾敏雄)・砂張銀梨地鉄鉢(魚住安彦)
 - ・鶉金具(大木秀春)・臙銀象嵌鶉水滴(桂盛行)
 - ・回文菱花器(香取正彦)・独楽釜(角谷一圭)
 - ・糸巻広口釜(菊地正直)・鍛鉄花瓶(後藤学)
 - ・漆目金小箱(進藤玉明)・替蓋付朱銅虫形香合(介川芳秀)
 - ・赤銅接合皿(関谷四郎)・波文筒釜(高橋敬典)
 - ・臙銀筒花生「落水譚」他1点(高村豊周)
 - ・銀象嵌七宝繫袋打釜鈞(寺西宗山)
 - ・黄銅文六角長手宮(内藤四郎)
 - ・はじきはだ田口釜他1点(長野埜志)
 - ・七宝文釜(畠春齋)・かすみ金方形形壺(八木原正寿)
 - ・八つ木瓜形唐草象嵌鐺他1点(米光太平)
- 木竹工
 - ・竹籠「あんこう」(飯塚琅玕齋)
 - ・竹刺繡菱繫文飾箱(飯塚小玕齋)
 - ・木瓜形老松盆(太田芝山)・樺親子筋拭漆大盆(川北浩一)
 - ・栃杮拭漆手箱(黒田辰秋)・網代貼砧角形茶入(佐藤省州)
 - ・白竹筒通花入(生野祥雲齋)・五木拭漆八角皿(藤器一正)
- 人形
 - ・紙塑人形「地久」(鹿兒島寿蔵)
 - ・衣裳人形「清泉」(平田郷陽)・衣裳人形「静」(堀柳女)

イ. 郷土の化石展（7月21日～8月31日）

岐阜県は岩手・高知などの諸県と並んで日本列島の中でも有数の化石産地をもつ県である。産出する化石は時代からいっても日本で最も古い（古生代シルル紀）ものからほとんどの時期にわたっており、種類も動植物とも豊富で、古生物や地質の研究資料として重要な役割を果たしている。

この特別展ではこうした多くの種類の化石のうちで特に有名なもの、すぐれた標本、めずらしいものなど化石の収集家が秘蔵する標本ばかりを一室に会して一般に公開することができた。

特別展示室を第1室として、岐阜県産の主要な化石を時代別（産地別）にしてケース内展示とした。最古の三葉虫（エンクリヌルス）や福地産の日本最大の直角石などにはじまり、赤坂金生山のペレロフォンやソレノモルファなど精選された各種貝化石へと続き、中生代では手取層のシダ植物化石やアンモナイト、更に第三紀では可見産のサイヤゾウなどの骨格、ピカリヤなど瑞浪の貝化石、第四紀のヒグマやオオツノジカなど洞穴産の動物化石、総計170点余りが勢ぞろいした。第2室では化石の学習コーナーを中心にして、手にとっての肉眼観察やコノドントや有孔虫化石のように顕微鏡下でみられる微化石を配列し、ナウマン象の実物大骨格図や化石の学習図書コーナーも含めて展示を構成した。



（郷土の化石展）

展示資料目録

- 〔シルル・デボン紀化石〕
- ・三葉虫4種
 - ・ハチノスサンゴ2種
 - ・四射サンゴ4種
 - ・層孔虫
 - ・腕足類2種
 - ・ウミユリの茎
 - ・直角石
 - ・巻貝
 - ・サンゴと層孔虫など18点
- 〔石炭紀〕
- ・貴州サンゴ類
 - ・腕足類
 - ・海綿
- 〔ペルム紀〕
- ・紡錘虫類2種
 - ・四射サンゴ
 - ・床板サンゴ2種
 - ・腕足類2種
 - ・二枚貝2種
 - ・巻貝5種
 - ・ツノ貝
 - ・オウム貝
 - ・ウミユリのプレート
 - ・ウミユリの茎
 - ・三葉虫
 - ・ウニのトゲ
 - ・シカマイア
 - ・アンモナイト3種
 - ・石灰藻
 - ・材化石
 - ・小型巻貝
- など47点
- 〔三畳紀〕
- ・放散虫
 - ・コノドント
- 〔ジュラ紀・白亜紀〕
- ・二枚貝2種
 - ・矢石
 - ・アンモナイト3種
 - ・シダ類の葉4種
 - ・イチョウの葉
- ・ソテツ類の葉
 - ・球果類の葉
 - ・珪化木
 - ・花粉の化石
- など41点
- 〔第四紀〕
- ・コハク入りの昆虫
- など14点
- 〔新第三紀〕
- ・小型有孔虫
 - ・二枚貝11種・巻貝6種
 - ・トンボの羽
 - ・淡水魚類
 - ・カニサイの下あごの骨と腕など
 - ・ヒラマギゾウの足の骨
 - ・ミノシカの肩の骨
 - ・デスモスチルスの腕の骨
 - ・ヒゲクジラのアゴの骨
 - ・サメの歯・オウム貝
 - ・水蓮の葉
 - ・カエデの葉と翼果
 - ・トクサの茎
 - ・メタセコイアの葉
 - ・ハンノキ
 - ・マツの球果
 - ・フナクイムシの巣穴
 - ・ヒシの実
 - ・淡水生の二枚貝
 - ・ホンブナの葉
 - ・オオミツバマツの球果
 - ・珪藻の化石
 - ・ナウマンゾウの歯
 - ・ヒグマの下あご
 - ・ヤベオオツノジカの歯・足の骨
 - ・ニホンムカシジカの下あご
 - ・ハタネズミの歯
 - ・ツキノワグマの歯
 - ・エノキの埋れ木
 - ・ツガ・ハンノキなどの花粉の化石
 - ・ニホンオオカミのアゴ

ウ. 鉄 斎 (10月29日～11月23日)

画家であり、かつ、和漢の学問に対する豊かな教養のあった富岡鉄斎(1836～1924)は、近代日本絵画史上、世界に誇り得る画家の一人である。

初期は大和絵、中期には明・清の南画などの古今手法を学びつつ、次第に大胆な造型と絢爛豪華な色彩を用いる独創的な画風を打ち立て、生涯に約1万点余の作品を残したといわれている。

華やかな色彩の中に一段と輝きを増す墨色の鮮やかさが、胸中から泉のように自然にほとばしり出る鉄斎芸術が、近年国民画の代表として多くの人びとの関心を高めていることに鑑み、宝塚市清荒神清澄寺の御好意を得、同寺の所蔵する約1,000点の中から鉄斎の最高の画業をしのぶ代表的名品約100点により、「特別展・鉄斎」を開催した。

会期中6,000人以上の観覧を数える盛況であった。特に、六曲屏風「富士山図」や額装「羅漢図」、掛軸「擬土佐又平筆法遊戯人物図」など、観覧者は足をとめ、鉄斎芸術の真髄にふれていただけたことと思っている。

また、11月13日には鉄斎研究会主催による鉄斎作品の研究会が開催された。県内各地の鉄斎画所蔵の諸子が56点を相持ち寄り、富岡益太郎氏等5人の鉄斎研究の講師によって鑑定研究が行われるなど、多くの人びとの関心をあつめたこともみのり多い特別展の収穫であった。



(鉄斎展)

展示品目録

番号	題 名	番号	題 名
1	叡山雪景図	51	東坡謁佛印図
2	菖蒲図連月尼賛	52	漁邨暮雨図
3	奴 図連月尼賛	53	陳希夷僊窩図
4	隠逸崎人図	54	丈夫心事二行書
5	越溪觀楓図	55	空山靜境図
6	日本絵図	56	盆蘭図
7	漁樵問答図	57	帝者師太公望釣魚図
8	淡彩山水図	58	靜坐息機図
9	空翠濕衣図	59	東坡煎茶図
10	貧窮問答図卷	60	羅漢図
11	北野大茶湯図卷	61	前赤壁図
12	石清水、伊勢、春日、三景図	62	赤壁四面図
13	蕉翁乘馬図	63	魁星閣図
14	西洋医祖秘父像	64	心遊仙境図
15	月ヶ瀬図卷	65	後赤壁図
16	天保九如章図	66	三尊窟靈蹟図
17	富士山図	67	瓢中快適図
18	漁樵問答図	68	蓬丘仙境図
19	茶僊溪居図	69	吉祥聚叢図
20	溪山勝槩図	70	山水・蔬菜図
21	勾白字詩七絶	71	普陀洛山觀世音菩薩像
22	松芝剛勁図	72	福内鬼外図
23	古石長椿図	73	猿猴捉月図
24	擬土佐又平筆法遊戯人物図	74	西湖全景図
25	靜觀樂事帖	75	水墨清趣図
26	松藤・櫻花図	76	聖者問答図
27	雪月花茶之書	77	富士山図
28	梅山幽趣図	78	蕉宿梅図
29	東瀛神境図	79	富而不驕図
30	萬歳書	80	瓶菊図
31	佳賓図	81	能因法師図
32	十牛図意図	82	溪居讀書図
33	多福多壽多男子図	83	立身木図
34	遠山雪景図	84	昇天龍図
35	蘇子笠履図	85	聖者舟遊図
36	猛虎図	86	蓬萊山図
37	王元之竹樓記図	87	前赤壁賦
38	聚沙為塔図	88	名花十二客絵染付吸物碗
39	白居易問鶴詩書	89	菟道眞景詩画器局
40	東瀛僊苑図	90	人物絵染付急須
41	三老吸酢図	91	鶴龜絵付并鉢
42	鍾馗嫁妹図	92	松竹梅靈芝絵料紙文庫
43	画帖東坡談	93	松芝不老絵文臺
44	朝晴雪図	94	蓮絵染付茶碗
45	孔明躬耕図	95	扇式菓子鉢
46	乘桴浮海図	96	松絵釜銘松風
47	四君子絵桐四枚折屏風	97	清風二字賣茶式大旗
48	伏魔大帝関雲長像	98	仿銅器式桐香爐
49	茂松清泉図	99	僊窟書賣茶式器局
50	福祿壽図	100	竹詩画團扇

4. 資料紹介（昭和52年度）

(1) 幕末文人遺墨（9月15日～30日）

資料紹介点数 25点

文化、文政期以後幕末の約70年間は、美濃における文化興隆の一大盛期といえる時期である。この間には、美濃大垣から出て日本の李白と称された梁川星巖をはじめとして、村瀬藤城・江馬細香、後藤松陰等多くのすぐれた文人が美濃に輩出し、とりわけ美濃文壇においては漢詩文が風靡し、当県文化史上最も充実した一時期である。

こうした郷土文化の特質を背景として、本資料紹介は、幕末期美濃に活躍した文人のうちから、特に梁川星巖とかかわりの深い文人、及び美濃来遊以来多くの影響を与えた頼山陽とその門人を中

心に13人の遺墨25点を選び紹介したものである。

紹介資料はすべて、多年郷土の文人遺墨資料収集に努力されてきた石田謙一氏の好意により今回当館に寄託された資料をもとに開催したものである。

なお、本展を開催するに当たり、資料解読の労をはじめとして、多大な力添えを富長覚夢教授から仰ぐことができた。特に会期中「大垣文教之心発掘顕彰会」主催により、約40余人の会員参加のもと、富長教授の卓越した資料解読及び解説の講演が終日展示室において開催されたことは、本資料紹介の意義を一層深めるものであった。

(2) 野鳥（10月4日～23日）

岐阜県は豊かな自然環境に恵まれ、野鳥の数も多い。なかでも、地理的条件から山地性の種類が多く、水辺の鳥は比較的少ない上に、渡り鳥の多いことも大きな特徴である。

この資料紹介では、池村兼武氏から寄託された野鳥コレクションを中心に、館蔵資料を加えて、留鳥、漂鳥、渡り鳥（夏鳥、冬鳥、旅鳥）に分類して紹介した。また、展示に当たっては、できるだけうがいで展示して特徴が相互に比較できるようにした。

なお、この資料紹介展により、身近な野鳥につい

ての理解を深めるとともに、愛鳥精神の育成を図った。

展示には、野鳥はく製121点（留鳥40点、漂鳥27点、冬鳥29点、夏鳥11点、旅鳥4点、その他10点）をケース内及び立木にとりつけて展示し、鳥の名称と特徴を紹介した。なお、野鳥生態写真や愛鳥キャンペーンのパネルによる愛鳥精神を高める呼びかけのコーナーや、「この鳥の名前は？」で野鳥の名前をあてるコーナーや、野鳥関係の参考文献の展示、それに、博物館を取り巻く百年公園内で見ることのできる野鳥も展示し、野鳥への興味と関心の高揚を図った。

(3) 「写真紹介」郷土の動植物（1月5日～2月26日）

標高差が大きく変化に富んでいる郷土の自然については、その一端が常設展示で紹介されているが、今回は、写真資料紹介として、常設展示とは違った角度、違った内容を紹介し、郷土の動植物への理解の深まりをねらった。

野鳥の生態としては、アカモズ・シメ・ゴイサギ・オシドリなど、足の形やくちばしの形で、その住み場所・えさとかかわりを示すものを、11枚、郷土の植生として、高山植物の世界から常緑広葉樹林までを、植生景観写真37枚を配した一大パネル内に垂直分布モデル図に配置、更に花の分

布として、クロユリ、ゴゼンタチバナ、ツバメオモト、ササユリ、シデコブシなど、各種ごとの生態写真に分布図を添えて26枚、カモシカの生態として、寒立ちや授乳のようすなど11枚、そしてハチの生態として、他の昆虫やクモなどをつかまえて幼虫に与えるカリバチ類を中心に、アオムシを運ぶジガバチ、クモを狩るオオシロフベッコウ、トックリバチの巣作り場面など17枚、午年にちなんで木曾馬のはく製1体、日和田や野麦などでの放牧写真11枚、総計113枚の写真資料を、半切ないしは四切版で展示紹介した。

5. 資料状況

(1) 自然資料

	館 蔵				借用	寄託	計
	実物	複製	その他	(寄贈分)			
動物	7,179	41	128	(5,631)	17	109	7,474
植物	1,654	25	167	(1,437)	0	0	1,846
岩石鉱物	764	5	62	(48)	20	3	854
化石	834	27	17	(442)	34	0	912
その他	46	22	130	(4)	0	0	198
計	10,477	120	504	(7,562)	71	112	11,284

複製には模型・ジオラマを含む 昭和53年3月31日現在

ア. 寄贈者芳名一覧 (敬称略 順不同)

昭和51~52年度

資料名	点数	芳名
ニホンツキノワグマ骨格ほか	2	長屋 喜一
イノシシ頭骨	1	長屋 鉄美
ホンDIGツネ幼獣	1	成瀬 亮司
イノシシ剥製	1	林 久雄
板取川産魚類	17	長屋 隆人 長屋 俊人
ホタテガイほか	4	大垣内 宏
ブラックバス	2	成瀬 審一
ミミズの研究資料	3	古賀 広章
ミカドマイマイほか(生体)	各種	大橋 健
ヤマセミ	1	丹羽 宏
木曾馬	1	名古屋鉄道KK
カワウ	2	海津町漁業協 同組合
ハツカン剥製	1	若園 春三
植物押し葉標本	多数	岐阜県高校生 物教育研究会
ネズコ大径木標本	1	黒木 敏春
一梨含礫片岩	1	向田 真一
倉越原溶岩礫・火山豆石	2	山田 健治
ウリノキ化石	1	福岡 時男
軟体動物化石	55	瑞浪市化石博 物館
材化石(白亜紀)	1	牛丸 吉郎
百葉箱	1	塩田 正平
非海産貝類標本ほか	1626	宮崎 惇
カスミサンショウウオ	1	古田 武司

ヤマカガシ	1	高橋 保夫
トラグミ,	1	市川 弘
アユ稚魚	139	県水産試験場
ハス	1	伏屋 政義

イ. 主要寄贈品紹介

<カワウ>

岐阜県海津郡海津町日原(長良川畔)で採集されたカワウを海津町役場産業課から寄贈を受けた。この資料を剥製とし、自然展示室2の「ウとアユ」のコーナーで、鶺鴒につかうミウとカワウの比較の紹介として展示している。

<非海産貝類> (乾燥標本)

イセノナマイマイほか、455種、1,626点を岐阜県羽島郡笠松町米野の宮崎惇氏から寄贈を受けた。この資料は、長年にわたって岐阜県内各地をくまなく歩いて採集されたコレクションであること、及び、県内非海産貝類の生息状況をつかむ上でも貴重な資料といえる。

<ネズコ大径木> (木幹標本)

木曾五木のひとつに数えられる径100cmの木幹標本で、樹齢約255年、御岳山麓大野郡朝日村産のもので、久々野町橋場黒木敏春氏から寄贈を受けた。御岳山麓は、伐採作業が進んで植林地が多くなっており、今後こうした大径木の資料は入手が困難と思われ、貴重な木幹標本といえる。

<白亜紀の材化石>

中生代の材化石としては荘川村西部の手取層中から産するXenoxylon(立木樹幹の化石)が有名である。しかし、国府町牛丸吉郎氏から寄贈されたこの標本は、それらとちがって白亜紀末期の凝灰岩(国府町宮谷川層)中からみつかったものである。この時代の植生を示す手がかりとして数少ない資料で、詳細は東京学芸大学木村達明教授により研究中であるがカラマツの一種とみられる。

<火山豆石>

この岩石は美濃加茂市山田健治氏から寄贈を受けたもので、加茂郡白川町新津の濃飛流紋岩類の水底堆積層中に含まれている。火山灰が球状に固結したもので中心には核がある。長径5~10mmのものも多く、まれに30mmに達するものもある。空中で噴火雲中の水滴によって火山灰が接合して核となり落下しながら外殻を成長させて地表に達したものとされている。

(2) 人文資料

	館 蔵				借用	寄託	計
	実物	複製	その他	(寄贈分)			
考古	179	45	41	(157)	271	336	872
歴史	463	11	76	(463)	31	1	582
民俗	585	2	75	(585)	341	0	1,003
美術工芸	56	21	33	(55)	146	459	715
その他	0	5	11	(0)	0	0	16
計	1,283	84	236	(1,260)	789	796	3,188

複製には模型、ジオラマを含む (昭和53年3月31日現在)

ア. 寄贈者芳名一覧 (敬称略・順不同)

昭和51～52年度

資料名	点数	芳名
宋代塑造彩色仏頭ほか	3	国井増太郎
刀剣(兼正)	1	大野 兼正
刀剣(昭平)	1	亀井 昭平
藤原市三郎作「末法五濁」	1	藤原 とき
河村目呂二作 俳画	3	土岐 恭道
〃 二折屏風	1	河村すの子
温故焼陶芸作品	6	清水 温故
鐺	1	成木 一彦
ウインチェスター銃ほか	2	長屋 鉄美
美濃国河道変遷図ほか	2	高橋 克馬
高富藩々札及び地券	12	桜井 謙吉
明治百年珍品・げてももの がらくた民俗資料	223	岐阜県ユネス コ協会
ヒアマ・燭台・雪鋤ほか	56	広瀬 貢
ひょうたん	10	藤塚 仁郎
竜吐水・駕籠・鎖帷子ほか	5	木村 義孝
縄文式土器片	14	小林 繁
家形石棺	1	東濃実業高校
対米宣戦布告号外ほか	14	山下 春三
地券	3	平光 一郎
牧野英一遺稿	11	牧野 康夫
小学校通知書	3	木下 昭治
金泥紅梅花生(自作陶器)	1	加藤幸兵衛
碧釉銀華獸頭方壺(〃)	1	加藤 卓男
紅白梅鉢 (〃)	1	荒川 武夫
白瓷大皿 (〃)	1	塚本 快示
赤志野茶碗・青緑花器(〃)	2	大橋桃之輔

鉄油滴花瓶 (自作陶器)	1	近田 精治
グレナ杣果物体 (〃)	1	熊沢 輝雄
志野茶碗 (〃)	1	加藤 精三
鉄釉壺 (〃)	1	加藤 孝造
志野茶碗 (〃)	1	林 幸太郎
白釉黒花紋花瓶 (〃)	1	中島 正雄
鼠志野花碗 (〃)	1	美和 隆治
鳴海織部茶碗 (〃)	1	佐々木 正
鼠志野花入 (〃)	1	安藤日出武
灰釉水指 (〃)	1	加藤 厚美
志野花入 (〃)	1	久野 勝生
志野茶碗 (〃)	1	若尾 利貞
花器「白い器」(〃)	1	安藤 博充
「千鳥」(〃)	1	河合 竹彦
灰釉飾壺 (〃)	1	加藤 裕英
花生「赫耀」ほか(〃)	2	小林 文一
黄瀬戸胴紐茶碗 (〃)	1	林 景正
小糸焼花器・盆 (〃)	2	長倉 三朗
抜絵天目水指 (〃)	1	加藤 賢司
熊谷守一筆「五風十雨」	1	熊谷 守一
雁爪・除草機・棒天秤ほか	69	亀山 美義
ムシロバタゴ・糸巻ほか	19	塚原 孝一
糸引機・コンロほか	8	藤村 一二
バンドコ・マユグリほか	8	岸 二郎
麦撒機・ひな人形ほか	7	古川 甫
ラジオ・行燈・ランプほか	7	古川 惣助
背中蓑・手打ち	2	亀山 一弘

イ. 主要寄贈品紹介

<河道変遷図>

岐阜県の西南濃地方は、治水利水の立場から輪中地域と用水地域とに分けて考えることができるが、捐斐郡久瀬村高橋克馬氏から寄贈されたこの河道変遷図は、これらの両地域を関連づけるのには重要な資料と言える。西南濃の河川の流路は変化に富んでいるが、室町期より幕末期までの流路の変遷が体系的、俯瞰的に把握することができる点でも貴重である。人文展示室1の主要な展示物の一つである輪中模型を観覧したあと、両地域を結びつけ、具体的に考える資料として、今後活用したい。

6. 教育普及活動

(1) 昭和51年度

初年度における教育普及活動は係長以下3人のスタッフにより、次の事業を実施した。

ア. 案内活動

団体オリエンテーション用スライドの作製と、このスライドにより当館の概要を平易に理解させることができた。各団体には時間のある限り利用した。

解説については業務嘱託員にその補助ができるための訓練を実施した。

イ. 教育活動

映画会の実施。実施期間(7/21~8/31)。岐阜県の文化財(美濃編・濃飛編・飛騨編)外、県政映画の紹介も含めて平日は1回、土・日曜日は2回上映し、期間中約1900余人が鑑賞した。

半原文楽・真桑文楽の上演。実施日8/1, 8/22。地元の方々の熱演もあって盛況であった。

ウ. 普及活動

広報誌として「博物館だより」2回、「博物館ニュース」を発行。

展示資料目録を作製し、資料提供者及び関係機関に配布。

「ふるさとの文楽」「熊谷守一展のリーフレット及び図録の編集発行。

概要書・リーフレットの作製配布等を行った。

そのほか図書資料室・郷土学習室を整備拡充し図書資料室は夏休みの7月20日より一般公開した。



(文楽上演)

(2) 昭和52年度

前年度と基本的には同じ方針を踏襲しつつ、今年度は新たに視聴覚面での充実、博物館に対する認識の拡大、図書資料室の蔵書数の増加等も加味しながら仕事を展開し、観察会・体験学習会等の教育活動分野への足がかりも得た。

ア. 案内活動

51年度を踏襲。

イ. 教育活動

小中学生を中心に学校教育への援助活動を積極的に取り上げ、学芸員による指導や、一般入館者への援助も含めて「ここをじっくり」を館内発行して、社教一体化の一翼を受けもった。

視聴覚機器の大幅な導入により、特にテレビによる資料の作製・保管・再生を図り、映画会は春・夏・秋の特別展や資料紹介のときに広く一般県民に公開。延5,969人が文化財や自然に関するフィルムを鑑賞、博物館の果たす役割の認識を高めた。

春の伝統工芸秀作展では、東京芸大の前田教授の講演会、秋の鉄斎展では、資料鑑定研究会や資料講読会を実施し、参加者に多大の感銘を与えた。



(鑑定研究会)

ウ. 普及活動

「博物館だより」2回、「博物館ニュース」は前年のように「だより」の間を縫って広報誌として発行。更に「展示案内」を編集発行し、県内の学校関係はもとより社会教育関係団体に至るまで配布、博物館のPRに努めた。

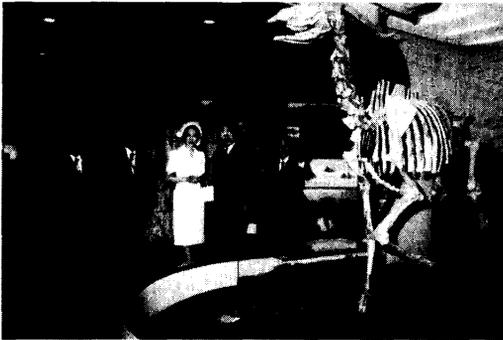
アンケートにより博物館への希望や要望をきき、その改善に努力した。

資料図書についても市町村史を中心に約1000冊の寄贈を受け、購入資料とあわせてその充実に努力した。

7. 日誌抄

(1) 昭和51年度

- 4.1 岐阜県博物館条例施行。
初代館長 小幡忠良外28人着任。
- 27 平野知事, 博物館建設状況視察。
- 5.5 博物館開館記念式典挙行。
式典後一般公開。(9月30日まで無料)
開館記念展「郷土巨匠三人展」「郷土スポーツ栄光展」開催。(6月6日まで)
- 5.9 岐阜県博物館協会総会。(岐阜医師会館)
- 6.8 東海博連絡協議会総会。(当館—9日まで)
- 7.14 皇太子・同妃両殿下御来館。



(自然展示室での皇太子御夫妻)

- 7.15 「博物館だより」第1号発刊。
- 8.1 特別展「ふるさとの文楽」開催。
(31日まで)
半原文楽「三番叟」上演。(講堂)
映画会始まる。(31日まで)
- 22 真桑文楽「阿波の鳴門」上演(講堂)
- 9.1 屋良元沖繩県知事来館。
- 10.1 入館料徴収開始。
日本博物館協会加盟。
- 18 第24回全国博物館大会。館長以下6人参加。(高山市—20日まで)
- 20 日博協会長徳川宗敬氏来館。
- 11.2 特別展「熊谷守一展」開催。(30日まで)
熊谷守一夫人来館。
- 12.1 昭和51年度博物館職員講習。1人参加。
(東京—国立社会教育研究所—12月15日

まで)

- 3.25 「博物館だより」第2号発刊。
- (2) 昭和52年度
- 4.1 小幡館長退職, 松尾克美館長就任。
- 24 鹿児島県県民局長 徳重正夫氏来館。
- 5.3 特別展「日本伝統工芸秀作展」開催。
期間中, 文化庁所蔵フィルムによる映画会実施。(30日まで)
- 4 臨時開館。
20万人目入館。記念品贈呈。
(吉城高3年 野村昌子さん)
- 5 日本伝統工芸秀作展記念講演会実施。
(講師 東京芸大前田泰次教授)
- 6 臨時開館
- 25 中国展覽団, 季団長一行6人来館。
- 26 アメリカ神戸総領事来館。
- 6.15 「博物館だより」第3号発刊。
- 20 日本博物館協会総会及び全国公私立博物館長会議。館長出席(東京科博—22日まで)
- 20 昭和52年度博物館職員講習。前年に続き1人参加。(東京国立社研—7月10日まで)
- 7.21 特別展「郷土の化石展」開催。
(8月31日まで)
期間中, 自然に関する映画会実施。
- 9.15 資料紹介「幕末文人遺墨」開催。
(30日まで)
- 22 第25回全国博物館大会。1人参加。
(熱海市—24日まで)
- 10.4 資料紹介「野鳥」開催。(23日まで)
映画会実施。(11月23日まで)
- 28 特別展「鉄斎」開催。(11月23日まで)
- 11.13 鉄斎研究会及び資料鑑定会実施。
(講師 鉄斎美術館富岡益太郎館長)
- 18 「東南アジア青年の船」一行来館。
- 1.1 「博物館だより」第4号発刊。
- 5 資料紹介「郷土の動植物」開催。
(2月26日まで)
- 3.23 「展示案内」発行。

第4章 調査研究

1. 美濃、飛驒の甲冑

(1)はじめに

昭和52年度当館では、特に郷土の歴史にかかわり深い武将所用の甲冑を中心とした資料調査を実施した。従来岐阜県においては、県内に残る甲冑を対象とした資料の調査研究は、専ら各々の専門研究者の手によって進められ、まだ組織的かつ体系的に調査されたことはなく、したがって資料に関する所在場所の確認等基本的事項すら容易に把握できないのが実情である。

こうした状況の中で、今回の調査は、まず幕藩体制下美濃、飛驒を支配した大名、旗本家所用及び伝来の甲冑を主体に実施した。この時期特に美濃は小藩が分立し、また多くの旗本家が入りまじる複雑な支配形態の下にあり、今回の調査により不十分ではあるが、これら領主にかかわりがあり、現存する遺品甲冑のいくつかを明らかにすることができた。これら甲冑は、その由緒及び資料内容からみて、県下の甲冑の中でもとりわけ重要な位置を占めるものであり、今後の活用のためその資料記録をここに集録するものである。

なお、今回の甲冑調査は、甲冑研究家吉田幸平氏の全面的協力により実施したものであり、特にここに集録した資料記録については、氏の手を煩わすことにより作成できたものである。

(2)資料の記録

ア. 紺糸威胴丸 八幡町 八幡神社蔵



郡上藩主青山家
伝来 慶応年間藩
主青山公直により
八幡神社へ奉納さ
れたものとされる。
○資料記録
兜
兜鉢 錆地平頂山
60間筋兜 八幡座
6段抱花擬宝頭形
座金 葵形葉菊透
彫、笠印鏝、響穴
四天鉾有、

鉢裏金箔置、十字力韋付

靴、饅頭靴、5段下り、本小札紺糸総毛引威、1寸6枚、裾板緋威 八双金物抱葉菊付
吹返 仕付吹返、据紋抱葉菊、覆輪付
前立・鍬形、金塗龍頭前立、三鍬形、鍬形台（抱葉菊透彫）

胴（胴丸形式）

衝胴5段、立拳胴3段、本小札紺糸毛引威、1寸5枚、胸板中央に抱葉菊据紋、八双金物3（据紋抱葉菊） 水吞鏝、采配鏝付、
下散 8間5段下り、 裾板菱縫緋威、練本小札毛引威。

頬当

錆地目之下頬当。

垂 4段下り、裾板菱縫緋威、本小札紺糸毛引威
喉輪、垂2段下り、菱縫緋威、八双金物3（抱葉菊透彫）

袖

置袖、本小札紺糸毛引威、1寸5枚 裾板 菱縫緋威 八双金物3（抱葉菊透彫） 水吞鏝（葉菊透彫）力韋付

箆手 11本篠箆手

佩楯 伊豫佩楯

臑当 13本篠臑当、立拳亀甲縫、加古板金唐韋付
時代考証 江戸時代中期 なお龍頭前立の保存箱には、寛政4季年2月吉日作之、若井半治郎安平（花押）の記録がある。



イ. 紺糸威二枚

胴具足 名古屋市

高阪正光蔵

高須藩主松平摂

津守義行所用

○資料記録

兜

兜鉢 大円山18間

二方白星兜 1間

7点鉾巖星

腰巻星なし、前篠垂3本篠、座小、前篠板雲竜彫、後篠垂2本篠、座小、八幡座、4段重、径1寸、笠印鑲付、鉢裏十字韋付

鞆、饅頭鞆、3段下り、本小札1寸5枚、紺糸毛引威、吹返、1段仕付吹返、吹返据紋葵紋付、覆輪枝菊彫

前立・鍬形・前立三ツ葵（葉菊三ツ葵）、鍬形台枝菊透彫、鍬形付

胴 二枚胴、衡胴5段、前立拳3段、後立拳4段、本小札1寸5枚紺糸毛引威、采配鑲・乳呑鑲、総角鑲（枝菊透彫）付、胸板入八双金物付

下散、8間5段下り、切付小札（裏革張り）紺糸毛引威、裾板緋菱縫

頬当 目之下頬当、垂3段下り、紺糸毛引威、裾板、緋菱縫、喉輪、2段下り、紺糸毛引威、裾板、緋菱縫

杏葉 葉菊三ツ葵据紋付

袖 壺袖 6段下り、入八双金物付、水呑鑲（枝菊透彫）付

箆手

3本筒箆手、蝶番付、銘、明珍宗信作、手甲畦目覆輪付

佩楯

伊豫佩楯

臙当

3本筒蝶番加古摺付、立拳亀甲縫

時代考証、江戸時代中期以降寛政の頃

ウ. 糸緋威二枚胴朱具足 東京都 竹腰正夫藏

今尾藩主竹腰家伝来、なおこの甲冑には、下記の由緒書がある。

道輝様朱御甲冑之御由緒、文政6癸未12月御染筆御唐櫃御出来ニ而納ル

慶長19年甲寅12月大阪之役石川主殿頭忠綱陣當近今橋四町許時之城兵放鉄砲ノ急矣。

正信君有事而到忠綱陣當時吾兵殆及狼狽正信君之把所使持之、鉄砲6挺更放之城兵為之辟易侍臣中西権之助調玉葉去帰後忠綱以使者贈朱漆甲冑一領謝之次歳夏役着之発軍

右三信君侍臣稲葉徳右エ門所筆記者也

○資料記録



面頬 (欠)

袖 (欠)

箆手

朱塗小篠、箆箆手

佩楯 朱塗板佩楯 臙当 朱塗越中臙当

なお、面頬は、竹腰家覚書にあるけれども現在のは欠。置袖欠は、陣羽織所用のためと思われる。またこの具足は、試具足用を兼ねて作製したものであり、他と比較して著しく重い具足である。

時代考証 江戸時代初期

エ. 黒塗紺糸威背割試胴具足 東京都 竹腰

正夫藏

下記の記録あり
系譜并稲葉伝記
等ニ云

大阪夏御陣之時
道輝君ニハ背割之
具足エツルノ差物
瀬田ト云ル馬ニ召
シ真田崩レヲ御乘
廻御人数ヲマトメ
尾張流ヲ引具シテ
大旗ヲ馬前ニ建サ
セ天王寺口ヲ御乘
アゲニ相成武者振
ヨシトテ御軍濟後
モ評判セシト也。



稲葉伝記ニ

輝君大阪御召之具足ハ三信様へ御譲ニナルトアリ、サラハ右ノ具足一着ニナレトモ今尾ニテ御唐櫃入モ石川ヨリ来ル朱具足也。此背割三信公御召也ハ、輝君ノ御譲ナル故ナリ。然ハ、天王寺口御乗上ノ御具足也。

江戸ニ有リテハ、融ノ憂恐レアリハ、今般相迎ス。以序今尾御廻ニ唐櫃一双ニシテ年始ニカサリテモヨシ。又其地ニ差置年々正月11日新□ガ桃ノ間ノ床ニカサリ、出合ノ者拜有リテモヨシ。篤ト家老共江相申合而取斗ノ事。

○資料記録

兜 兜鉢，74間小星兜（奈良物） 八幡座 3段重抱花付，卸眉庇，角本付 鞆，日根野鞆，紺糸素懸威，浮張，紺麻家地，前立，鍬形（欠）

胴 背割横矧五枚胴

前衝胴3段立拳1段の4段後胴5段，各段に弾痕がある。すなわち前胴5発，後胴6発，右胴2発・左胴2発の計16発にのぼる試打の弾痕がある。下散，7間5段下り，切付小札，紺糸毛引威 裾板熊毛植毛

頬当 半頬（猿頬）垂鎖形，袖（欠） 箆手 5本箆箆手，肩小箆，手甲7旺透彫 佩楯 小箆 箆佩楯 臑当 7本箆臑当 時代考証 江戸時代初期寛永期

オ．紋尽白檀塗総蝶番二枚胴具足

岩村藩主松平能

登守乗蒞公所用

○資料記録

兜

兜鉢，平頂山62間筋兜 八幡座（欠）響穴，四天鉾付 庇眉駒爪形，抜立付，鉢裏要害板付 錆地，鉄輪形張受付，抜立に特種羽根付，角本付，鞆 板札5段下り



縹糸素懸威，裏金泥塗，裾板菱縫黄櫨糸威。吹返，五旺透彫，前立，鍬形（欠）

胴 総蝶番二枚胴

前胴，蝶番長側5段，胸取3段，板札黒糸威，胸板，脇板金梨子地塗，蒔絵垂葛紋，丸ニ三枚葉南天，胸板一枚金鍍金，葛紋付，三箇鉾付 後胴，長側5段，背取4段，合打理・受筒付，背板，脇板金梨子塗蒔絵垂葛紋，三枚葉南天紋，綿嚙，金梨子地蒔絵葛紋，三枚葉南天紋付 下散，9間5段下り，裾板に蒔絵垂葛紋，三枚葉南天紋，揺糸・下散威は黒糸威，但切損消失。

頬当

目之下頬当，（銘）明珍宗光（朱書） 錆地姥母頬，蝶番付，耳の位置に撫子紋透彫，咽輪形垂，板札5段下り，銀塗縹糸素懸威，裾板，萌黄糸菱縫，畦目紫糸威，面頬，垂に咽輪形蝶番付板物付

袖（欠） 箆手 5本箆箆手，手甲には松平家裏紋三葉南天を付す。佩楯 板佩楯，4段下り 家地紋様山葡萄に栗鼠，臑当 7本箆臑当，家地紋様上に同じ。 采配 朱塗采配，透菊八幡座付，柄，鍍金覆包に垂葛紋，錫銅紋壘 時代考証，江戸時代中期

カ．卯花威白檀塗二枚胴具足 福井県 金森 穰



高山藩主金森家伝来

○資料記録

兜 兜鉢 62間小星兜 八幡座 5段重抱花付 鞆 饅頭鞆，白檀塗切付小札，5段下り，卯花総毛引威 吹返 据紋15枚箆 鍬形，龍頭鍬形

笠印鑲付

胴 白檀塗総毛引威二枚胴 前胴，衝胴5段，立拳3段，後胴，衝胴5段，立拳3段，胸板据金

物枝菊透彫，据紋劔醬草，総角 鐙付枝菊透彫
据紋劔醬草，乳吞鐙，薬箆袋付，下散，7間5段
下り，本小札白檀塗白糸毛引威，菱縫白糸

頬当 朱塗目之下頬当，垂4段切付小札，白檀
塗総毛引威

袖

大袖7段下り，本小札1寸7枚白檀塗白糸威総毛
引威

八双金物，水吞鐙
枝菊透彫，据紋劔
醬草，箆手 白檀
塗小田箆手，佩楯
紋散鎖佩楯，据紋
劔醬草，桔梗

臙当 白檀塗篠臙
当，甲懸付

時代考証，江戸時
代中期元禄の頃



キ．紫糸素懸
威二枚胴具足，福
井県 金森 穰
伝金森長近所用

○資料記録

兜 兜鉢，越中頭形，前正中2本角本，八幡座
穴有，鞆 日根野鞆，板物紺糸素懸威，前立(欠)
胴 錆塗紫糸素懸威二枚胴

下散，金箔塗7間5段下り，裾板熊毛植毛

頬当 半頬，垂3段下り紺糸素懸威板札

袖(欠)陣羽織着用のため袖を欠いたものと推
定，箆手 筏箆手 佩楯 板佩楯，臙当 7本越
中臙当

時代考証 戦国時代末から江戸時代初期と推定

ク．金小札浅葱糸威胴丸 丹生川村 住吉神
社蔵

美濃西部出身の戦国武将堀秀政所用の甲冑と伝
えられるが，秀政とは従兄弟の間柄にある堀直政
の流れをくむ堀家伝来のものと考えられる。なお，
この甲冑は，昭和28年高山在住の中谷鶴次郎氏に
よって住吉神社に奉納されたものである。

○資料記録

兜 兜鉢，大円山20間2方白巖星兜，星1間8
点，腰卷1点の9点，二方白篠垂，前3本，後2
本，篠板枝菊透彫，八幡座，座金5段重，裾座金
枝菊，響穴，笠印鐙付

鞆 笠鞆 金小札4段 縹糸総毛引威，裾板緋威
枝菊透金物5カ所

吹返 4段の2段吹返 据紋釘抜紋

前立・鍬形 釘抜の前立・鍬形台枝菊透彫

胴 胴丸

衝胴4段，立拳2
段，金小札1寸4
枚，浅葱糸総毛引
威，八双金物，枝
菊透彫，胸板葦紋
様榊獅子紋，総角
鐙木瓜形枝菊紋

下散 8間5段下
り，金小札浅葱糸
総毛引威(練小札)
裾板緋威各下散枝
菊透彫金具付

杏葉 2個釘抜紋

頬当 黒塗目之下頬当，垂金小札浅葱糸毛引威
3段下り，裾板緋威枝菊金具付，喉輪 垂2段
下り，金小札浅葱糸毛引威，一之板・裾板(緋威)
八双金物枝菊透彫，袖 広袖6段下り，金小札1
寸4枚浅葱糸総毛引威，裾板緋威枝菊金具付，折
環付(八双金物枝菊透彫)，水吞環付(枝菊透彫)，
力革付，箆手 11本篠箆手 鯨手甲，釘抜紋付，
佩楯 伊豫佩楯 臙当 5本篠加古摺臙当，唐花
紋，立拳亀甲縫，甲懸熊毛付

時代考証 江戸時代中期享保之頃

ケ．紺糸威二枚胴具足 関市 大雲寺蔵

旗本迫間大嶋家伝来，第5代義苗，第6代義順
両公所用のものともいわれる。

○資料記録

兜 兜鉢 錆地平頂山四方白32間筋兜，八幡座
5段重抱花，四方白之位置無鍍金，玉垣有，篠垂
前3本，後2本・側1本，小星両面23点2列
鞆，饅頭鞆，5段下り，直眉庇，菱縫の板に透彫
金物3個有

吹返 据紋迫間大嶋家家紋，三揚羽蝶付
兜・（銘）常州住早乙女家忠作



胴 横矧二枚胴
胸取2段，腰取2
段花板札紺糸素懸
威，家紋梅鉢有
水吞鑲付，乳吞鑲付
八双金物は，江戸
時代中期以降の出
八双金物，合当理・
総角之鑲有
下散 5段下り，
切付小札総毛引威
腰韋付，杏葉 打
出三揚羽蝶，繩覆

輪，頬当 錆地総面一枚打出面，髮眉銀蒔絵
袖 広袖，花板札毛引威，折鑲，水吞鑲付
籠手 錆地紋盡小田籠手 大嶋家裏紋梅鉢
佩楯，板佩楯 臙当 錆地9本篠臙当，甲懸有
時代考証 江戸時代中期，但総面頬当は戦国末期

コ. 白萌黄段威二枚胴具足

伝大垣藩城代家老
大高金右衛門所用
○資料記録

兜

兜鉢，平頂山42間
総覆輪筋兜各間金
銀鍍金枝菊象嵌，
八幡座大葵菊座4
段重，卸眉庇，抜
立付，笠印鑲付，
兜銘，9月吉日，
明珍家次，鞆，饅
頭鞆，3段下り，



白萌黄寄毛引威，菱縫緋威，鞆は 小札の頭を板
物に切り固め，寄毛引とし二之板白，三之板萌黄
吹返，仕付吹返，据紋木瓜花菱（唐花）紋金鍍金

胴 本小札1寸5枚 白萌黄段威 総毛引威二
枚胴，衡胴5段，立拳3段，胸板藻獅子韋包覆輪
付，胸板入八双金物付，采配鑲，乳吞鑲付，後胴
総角之鑲付，後衡胴3段勝糸，立拳1段啄木糸毛

引威，下散，7間5段下り，萌黄裾濃威菱縫緋威
杏葉 双組藻獅子韋包据紋木瓜花菱（唐花）紋
頬当 目之下頬当，垂5段下り，萌黄素懸威，曲
輪形式蝶番付，袖 広袖，6段下り，本小札1寸
5枚，白萌黄段威，裾板菱縫緋威，水吞鑲付，化
粧板折鑲形，八双金物3個付 籠手 錆地11本篠
籠手 手甲据紋木瓜花菱透彫，肩五三の桐透彫錆
地紋様付 佩楯 伊豫佩楯相綴縁，白萌黄
威，臙当 3本筒臙当，裏金唐革，加古摺付，立
拳白糸毛引威
時代考証 江戸時代中期元禄頃 但し兜鉢は寛文
之頃

サ. 縹糸裾濃威胴丸 糸貫町 本巢高等学校
蔵

旗本文殊戸田家伝来

○資料記録

兜 兜鉢 錆地大円山二方白20間星兜，1間9
点鋌，篠垂前3本，後2本，八幡座，葵座座金4
枚，響穴・笠印鑲付



鞆 本小札3段下
り，縹糸総毛引威
吹返，2段吹返
牡丹繪韋，六旺星
据紋

前立・鍬形 六旺
星前立，鍬形台枝
菊透彫

胴 胴丸

衡胴4段，立拳2
段，本小札1寸4
枚半，縹糸裾濃威
采配鑲，乳吞鑲

総角鑲付 下散 7間5段下り，本小札縹糸裾濃
威

栴檀板・鳩尾板付，頬当 錆地目之下頬当，垂3
段下り，縹糸裾濃威，袖 大袖 7段下り，本小
札1寸4枚半，縹糸裾濃威，水吞鑲付，冠板牡丹
に唐獅子紋 籠手 黒塗3枚筒小手 佩楯 伊豫
佩楯 臙当 3本筒臙当，加古摺付，植毛甲懸付
時代考証 江戸時代中期享保頃と推定，ただし兜
鉢は，室町時代初期のものを仕替使用したものと

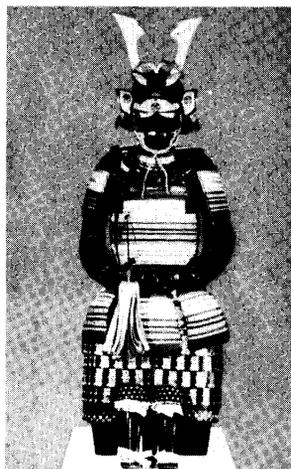
考えられる。

シ. 色々威二枚胴具足 武芸川町 佐藤武男蔵

旗本西高木家伝来

○資料記録

兜 兜鉢, 平頂山12間筋兜, 八幡座4段重抱花付, 各間銅覆輪, 笠印銀付, 響穴4点鉾卸眉庇据紋違鷹羽鞆, 日根野鞆, 5



段下り切付小札 上2段黒塗小札紫糸威, 中2段金箔置小札白糸威, 裾板黒塗札緋威, 吹返, 仕付吹返, 金鍍金太覆輪付, 藻獅子草張, 畦目紫糸, 据紋違鷹羽

前立, 鉾形, 練革金箔置鉾形, 鉾形台獅嚙仕付

胴 胴丸, 衡胴5段, 下2段半金箔置, 上2段半黒塗, 立拳3段, 上1段半黒塗, 下1段半金塗本小札1寸5枚半, 総毛引威, 威毛色上より紫2段, 白2段, 緋2段, 白2段, 入八双金物3個枝菊透彫, 胸板蒔絵覆輪, 脇板雁木篠, 蒔絵据紋・高木家家紋違鷹羽前・後胴に各2個, 采配銀付, 乳吞環なし, 総角銀, 合打理, 受筒付下散, 7間5段下り, 本小札1寸5枚半, 上2段半金塗, 下2段艶消塗, 威毛上より紫, 白2段, 緋2段

頬当 目之下頬当, 黒塗, 垂4段下り, 切付小札, 上2段黒塗紫糸威, 中1段金塗白糸威, 裾板黒塗緋威, 袖 置袖, 切付小札, 折環・水吞緒付威毛上から紫2段, 白2段, 緋2段, 裏力革付, 籠手 小田籠手 佩楯 板佩楯 臍当 7本篠臍当, 時代考証 江戸時代中期元禄から享保の頃

ス. 金小札紺糸威二枚胴具足 大垣市 下里勝彦蔵

旗本高木家伝来

○資料記録

兜



兜鉢, 後勝山16間筋兜, 八幡座2段菊座透彫響穴4天鉾, 笠印銀付, 2本角本付

鞆 日根野鞆, 切付小札紺糸毛引威前立・鉾形, 違鷹羽前立

胴 二枚胴切付小札金塗紺糸毛引威, 胸板入八双金物, 采配銀付,

合打理・受筒有, 下散, 7間5段下り, 金塗紺糸威・裾板畦目緋威

頬当 目之下頬当, 垂4段下り, 金塗紺糸威,

袖 置袖 切付小札金塗紺糸威

籠手 金塗小田籠手

佩楯 笏佩楯

臍当 金塗7本篠越中臍当

時代 江戸中期元禄頃

セ. 色々威二枚胴具足 高山市 法華寺蔵

加藤光正公所用 (熊本藩主加藤忠広の嫡子・清

正の孫, 高山天照寺に閉居し寛永10年(1633)病没。)

兜 兜鉢, 12間突盛之兜, 卸眉尻腰卷金塗

鞆 日根野鞆, 4段下り, 板札緋・白・黄檀毛引威

胴 二枚胴衡胴5段, 立拳3段, 色々威, 威毛色立拳上より革閉



緋, 萌黄、衡胴 上より黄檀, 緋, 紺, 白, 黄檀, 下散, 6間5段下り, 切付小札色々威, 威毛上より黒, 萌黄, 白・緋, 黄檀

頬当 練目之下頬当, 垂, 板札3段下り朱塗, 威毛黒, 白, 緋, 袖 置袖 6段下り板札・色々威威毛白, 緋, 萌黄, 黄檀, 黒, 箆手 家地箆手, 手甲朱塗鯨形 佩楯 朱塗板佩楯(4段) 臙当(欠) 櫃, 丸櫃

時代考証 本資料は, 板物と切付当世小札の両方を持ち, 戦国時代から江戸時代初期にかけての過渡期的な意義を有するものであるとされる。

ソ. 卯花威白檀塗二枚胴具足 大垣市 土屋伊作蔵

船附(養老郡養老町)谷家旧蔵

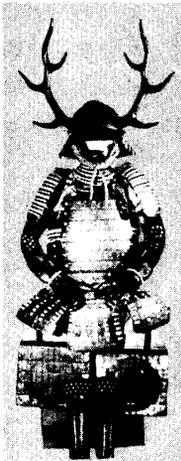
○資料記録

兜 兜鉢, 平頂山46間2方白総覆輪筋兜, 八幡座4段重抱花付, 篠垂, 前3本, 後2本, 眉庇, 棚卸眉庇, 笠印鏝付

鞆, 日根野鞆, 5段下り, 切付小札白糸毛引威前立・脇立, 日輪前立, 黒塗木彫鹿角付

胴 白檀塗皺革包白糸菱閉二枚胴, 合打理, 受筒付, 下散, 7間5段下り, 白糸素懸威

頬当 半頬, 垂4段下り 切付小札白糸毛引威



袖 置袖, 切付小札白糸毛引威

箆手 小田箆手

佩楯 板佩楯, 据紋丸に三ツ星

臙当 7本篠臙当加古摺付

時代考証 江戸時代中期元禄頃

タ. 綾錦包二枚胴具足

岩村町 岩村町郷土館蔵

岩村藩主松平乗寿公所用, 大阪夏の陣所用と伝えられる。

○資料記録

兜 兜鉢, 62間唐冠兜, 鞆, 日根野鞆, 7段下り, 綾包萌黄素懸威, 後立, 嬰2本篠及び皺打まゆ, 前立(欠)

胴 綾包鳩胸二枚胴, 下散, 6間6段下り, 綾包萌黄素懸威 頬当 鍔塗目之下頬当, 垂5段下

頬当 鍔塗目之下

頬当, 垂5段下り 綾包萌黄素懸威

袖 置袖, 7段下り, 綾包萌黄素懸威

箆手 篠箆手, 家地(欠)

佩楯 (欠)

臙当 7本篠越中臙当

時代考証 江戸時代初期



チ. 紺糸威二枚胴具足

岩村藩家老丹羽瀬家伝来

○資料記録

兜 兜鉢, 鍔塗62間筋兜, 鞆, 5段下り, 紺糸毛引威

胴 本小札紺糸総毛引威二枚胴, 采配鏝付, 薬箆袋付, 右巴金具付



下散 7間5段下り, 紺糸毛引威, 熊毛植毛

頬当 鍔塗目之下

頬当, 垂4段下り 紺糸毛引威

袖 置袖, 緋, 紺白段威

箆手 3本篠箆手 巴紋付

佩楯 (欠)

臙当 3本鍔地筒臙当 加古摺, 甲

懸付 時代考証 江戸時代中期享保頃

ツ. 紫白敷目威五枚胴具足 早川家蔵

早川家伝来

○資料記録

兜 兜鉢 鍔地32間後勝山, 伊賀星兜, 1間9点鉢, 八幡座, 抱花付3枚座金, 角本付, 笠印鏝付, 眉庇 鍔地棚眉庇, 日根野鞆, 5段下り,

切付小札・紫白敷
目威，裾板菱縫
吹返，蒔絵16弁菊
据紋，尾張形吹返
胴 五枚胴
衡胴4段，立拳3
段，本小札1寸5
枚紫白敷目威，綿
嚙，蝶番付，胸板
雁木篠，采配鐙，
乳呑環付，合打理
付



下散 7間5段

下り，金箔置本小札紫白敷目威裾板熊毛植毛
頬当 黒塗目之下頬当，垂5段下り，切付小札
紫白敷目威

袖 置袖，5段下り，切付小札紫白敷目威，裾板
緋菱縫，箆手 篠箆手 佩楯 伊豫佩楯，臙当
7本篠臙当

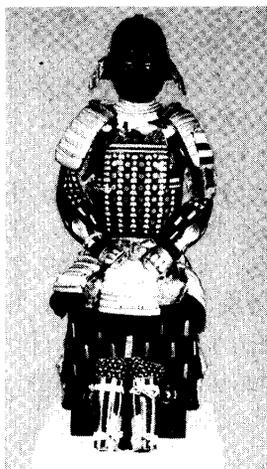
時代考証 江戸時代中期元禄頃（尾張具足）

テ．浅黄糸素懸
威二枚胴具足 羽
島市 岡田廣久蔵
旗本八神毛利家
所用

○資料記録

兜 兜鉢 32間
後勝山筋兜，蒔絵
総覆輪7点紋，卸
眉庇，見上皺打ま
ゆあり，
鞆 日根野鞆，切
付小札浅黄糸毛引
威

吹返，左吹返（欠）



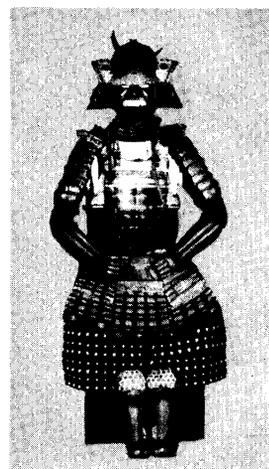
胴 花小札浅黄糸素懸威二枚胴，衡胴5段，
立拳3段，16弁紋尽
下散，7間5段下り，切付金小札浅黄糸毛引威，
裾板熊毛植毛
頬当 目之下頬当，垂4段下り，切付金小札浅黄
糸毛引威

袖 置袖，6段下
り，切付金小札浅
黄糸毛引威，毛利
家家紋菊一紋袖印
付

箆手 小田箆手
佩楯 金漆塗筏ち
らし

臙当 金漆塗7本
篠臙当

時代考証 江戸時
代初期



ト．萌黄糸威二枚胴具足

旗本岩手竹中家所用

○資料記録

兜 兜鉢，鍔地 62間筋兜，八幡座 葵座抱花
透彫付，笠印鐙付

鞆 饅頭鞆，萌黄寄毛引，出八双金物4個

吹返 仕付吹返，据紋九枚笹（竹中家家紋）

前立，半月

胴 平山道，胸取白糸 胸板繩覆輪，采配鐙，
乳呑鐙付

下散 7間5段下り，萌黄寄毛引，裾板据紋金物
各裾板2個，

杏葉 据紋九枚笹

頬当 鍔地目之下頬当，髭銀蒔絵，垂4段萌黄寄
毛引

袖 置袖7段下り，萌黄寄毛引，八双金物3個，
折環付，裾板据紋牡丹3個，水呑銅付

箆手 鍔塗7本篠箆手

佩楯 板佩楯，白糸威，臙当 鍔地5本篠
臙当

時代考証 江戸時代中期元禄頃（加賀具足）

ナ．萌黄威二枚胴具足

旗本岩手竹中家家臣寺嶋家伝来

○資料記録

兜 兜鉢，12間突隘筋兜，鞆，日根野鞆，6段
下り，切付小札萌黄毛引威，鞆鍔劔唐花，裾板朱
塗，前立，輪拔

胴 横矧二枚胴 胸取朱塗 紫糸毛引威



采配鑲付据紋劔唐
花付下散, 7間5
段下り, 切付小札
萌黄毛引威
頬当 朱塗目之下
頬当, 垂3段, 板
札紫糸毛引威
袖 置袖, 5段下
り, 萌黄毛引威,
裾板朱塗
籠手 笈朱塗籠手
据紋劔唐花付
佩楯 板佩楯

臙当 7本朱塗篠臙当

時代考証 江戸時代中期元禄頃

二. 紺糸佛二枚胴練具足

旗本岩手竹中家家臣寺嶋家伝来

○資料記録

兜 兜鉢, 唐冠之兜, 鞆, 6段下り, 板札銀塗
紺糸素懸威

後立 嬰(欠)

胴 練佛二枚胴
下散, 7間5段下
り, 練紺糸素懸威

頬当 錆塗半頬
右粉韋仕付 垂

4段紺糸素懸威,

袖 練5段下り,

紺糸素懸威

籠手 (欠)

佩楯 佛練佩楯

臙当 3本筒臙当



時代考証 唐冠之兜は、慶長から寛永期のもの
と考えられ、胴, 袖, 佩楯等練具足は、幕末にお
ける最も簡素な具足の1つと考えられる。

又. 紺糸威肩白胴丸

大垣藩主戸田家所用

○資料記録

兜 兜鉢, 錆地大円山2方白22間巖星兜, 1間

・9点鉾(うち腰巻1点鉾), 前篠垂3本, 後篠垂2

本, 八幡座(玉縁, 小刻, 菊座2重), 天辺穴
経5cm, 響穴4個
笠印環, 力韋付,
鞆 笠鞆, 4段下
り, 本小札1寸4
枚半毛引威, 裾板
緋菱縫, 裾板枝菊
透彫金具5個付,
吹返 4段の3段
吹返, 枝菊透彫金
具付
前立, 蝶, 鍬形,
枝菊透彫鍬形台付



胴 胴丸, 衝胴

4段, 立拳3段, 本小札1寸4枚半毛引威, 胸板
獅子紋繪韋包, 入八双金物枝菊透彫, 総角鑲付
下散, 7間5段下り, 本小札1寸4枚半毛引威,
裾板緋菱縫, 枝菊透彫金具2個付

杏葉 枝菊透彫金具付

頬当 錆地目之下頬当, 垂3段下り, 本小札1寸
5枚毛引威, 裾板枝菊透彫金具付

喉輪 3段下り, 本小札1寸5枚毛引威

袖 広袖, 7段下り, 本小札1寸4枚半毛引威,
裾板枝菊透彫金具付, 入八双金具(枝菊透彫)

笄金物, 水吞鑲付

籠手 3本筒籠手, 家地に九曜紋入, 鯨手甲火炎
打出有

佩楯 伊豫佩楯 裾板緋菱縫, 枝菊透彫金具付

臙当 大立拳付3枚筒臙当

なお、この甲冑には、下記2枚の折紙がついて
いる。

紺糸肩白威胴丸(折紙)

二月吉辰

紀
宗正(花押)

惟時 日本唯一甲冑良工
享保十二丁末年 増田明珍大隅守

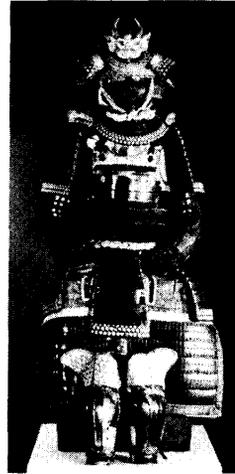
於武江御城下極之
武内宿称五十五世嫡裔

代黄金 千枚

宗繩 住号近大夫
大園山二拾二間大星九點精鍊珍甲也
正作 之徳此治

神功皇后臣武内宿称宗徳三十二代末
中興増田明珍祖出雲守紀宗介
七代嫡孫

遠山家字紋丸二引両紋付 頬当 錆地目之下頬当，垂4段下り，板札紺糸素懸威，裾板緋菱縫 胴 段替，鳩胸，五枚胴，衝胴，4段，切付小札紺糸毛引威，立拳，板物2段，紺糸胸取，入八双金具3個付，采配，乳吞鑲付，袖 当世袖，



7段下り，板札紺糸素懸威，裾板緋菱縫，入八双金具3個付，力韋付，下散 7間5段下り，板札紺糸素懸威，裾板緋菱縫，佩楯 伊豫佩楯，箆手 小田箆手，角手甲，据紋丸二引両紋付 臙当 5枚筒臙当 (立拳付)

半 頬

神功皇后臣武内宿禰宗徳三十二代末
中真増田明珍祖出雲守紀宗介

十七代嫡孫

信家 号左近將監 正作 天文
住上州白井 之比

齒形精鍊珍奇半頬也

代黄金七枚

於武江御城下極之
武内宿禰五十五世嫡裔

惟時 日本唯一甲冑良工
寛延四辛未年 増田明珍大隅守

二月吉辰 紀 宗正(花押)



ネ. 紺糸威桶 側五枚胴具足

大垣藩主戸田家所用

○資料記録

兜 兜鉢，後勝山62間筋兜(鉄板矧合せが曲線)，八幡座(菊座2重・浪座，玉縁)，響穴4点，笠印鑲，力韋付

鞆 5段下り，板

札紺糸素懸威，吹返，花形の吹返し，祓立台付(鶴首付) 頬当 目之下頬当，垂板札紺糸素懸威 杏葉 戸田家家紋九曜紋入 胴 桶側五枚胴，采配，乳吞鑲付，合打理，受筒付，下散 8間5段下り，板札紺糸素懸威，裾板紺糸菱縫，袖 置袖，7段下り，板札紺糸素懸，裾板紺糸菱縫 佩楯 伊豫佩楯 箆手 7本篠箆手 角手甲，銘岩井橘安薫作 臙当 7本篠臙当(立拳付) 銘岩井橘安薫作，甲懸付

ノ. 紺糸威五枚胴具足

苗木藩主，遠山家所用

○資料記録

兜 兜鉢，平頂山42間筋兜，天辺の座，葵座(枝菊透彫)，2重菊座，抱花(唐草毛彫)，響穴4点，笠印鑲付，鞆，3段下り，板札紺糸素懸威裾板，緋菱縫，前立・鍬形 獅嚙前立，鍬形(欠)，鍬形台，枝菊透彫，吹返，3段の2段吹返据紋，

ハ. 色々威二 枚胴具足

苗木藩主遠山家所用

○資料記録

兜 兜鉢，阿古陀形32間総覆輪筋兜八幡座(円座，菊座3重，浪座)，鞆，5段下り，切付小札毛引威(威毛上段より縹，緋紫，白) 吹返，

日根野吹返，据紋丸二引両紋金塗，前立・鍬形，三鍬形，鍬形台据紋丸二引両紋3個付，頬当 目之下頬当，垂4段下り切付小札色々威(威毛上段より縹，緋，萌黄，白) 胴 二枚胴，衝胴5段，立拳4段，切付小札色々威(威毛上段より白・縹・緋・萌黄・白・紫・緋・萌黄)，胸板・脇板据紋丸二引両紋金塗，采配鑲，合打理，受筒付，下散 7間5段下り，切付小札毛引威(威毛上段より縹・紫・勝・白・萌黄) 裾板緋菱縫，袖(欠) 佩楯 越中佩楯，箆手 小田箆手，角手甲据紋丸



二引両紋付，臙当 7本篠臙当（立拳付）

ヒ．茶糸威最上胴丸 揖斐川町 清水神社蔵
稲葉一鉄所用

○資料記録

兜 兜鉢，日根野頭形，頂辺・前正中角本付，響穴4点，鞆，饅頭鞆 4段下り，本小札1寸6枚毛引威，吹返，皷葦包1段吹返，据紋折敷3文字

頬当 猿頬，垂4段下り，板札素懸威，曲輪形式

胴 胴丸，衡胴5段，前立拳3段，後立拳4段長側4段，板札素懸威，脇は蝶番を用いず，本小



札1寸7枚を採用
総角鐐（枝菊透彫）
付，折敷3文字据
紋胴に5個，1の
板3個付

下散 10間6段下り，本小札1寸6枚半毛引威

袖 壺袖，6段下り，本小札1寸6枚毛引威，折敷3文字据紋3個付，笄金物（枝菊透彫）

水呑鐐付

時代考証 室町時代末期

フ．茶糸威丸胴

由来 伝大垣藩主戸田氏鉄所用

○資料記録

兜，兜鉢，立木頭兜，前・後正中角本付

（後記）

県下には，1千領をこえる甲冑が，現存するともいわれ，その数からすれば，今回の調査の対象となった甲冑は，極めて限定された資料にしかす

鞆，日根野鞆，5段下り，板札素懸威

頬当 猿頬，垂5段下り，板札素懸威，曲輪形式

胴 丸胴，前立拳3段，衡胴5段，切付小札毛引威，

下散 6間5段下り，切付小札毛引威

箆手 小田箆手，

角手甲

佩楯 板佩楯据紋日之丸紋

臙当 越中臙当



ヘ．紅糸中白胴丸 垂井町 南宮神社蔵

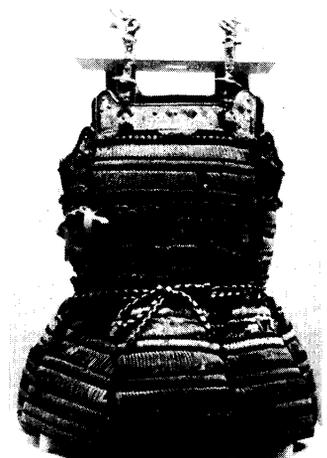
由来 伝斎藤道三所用

社伝によれば，この甲冑を竹中半兵衛重治が入手し，それを従弟の重隆が，関ヶ原戦の戦勝祈願の謝礼として南宮神社へ奉納したものとされる。

○資料記録

胴，胴丸，衡胴5段，立拳3段，小札1寸6枚半，

（鯡歯小札），草摺7間4段下り威毛上下紅糸・中間白糸



ぎないが，今回の調査を起点として，この分野の調査，研究が今後一層深化することを期待するものである。
（学芸員 堀部 満）

2. 関市倉知産材化石と関市付近の第四系

はしがき

開館直後の岐阜県博物館へ関市倉知在住の入館者から「畑の近くの津保川に大きい埋れ木がある。博物館資料になるのでは……」という連絡があった。昭和51年夏に現地調査を行ったところ、近年の河川改修工事で河床をしゅんせつしたため、現在の河川礫の下から基盤の頁岩層や、これをおおう軽石層、砂泥層があらわれていた。オレンジ色の軽石を含む礫層直下の灰黒色泥層中から材化石が一部露出して川水に洗われており、少なくとも現世の流木などではないことが判明した。

このとき確認した材化石は9月の増水時に浸食されて流失したが、近くの河岸に別のものがみつかったとの連絡が入った。減水期の初冬に調査した結果、夏にでていたものより大きな材化石が埋まっているのを確認し、年末に採取作業を行った。

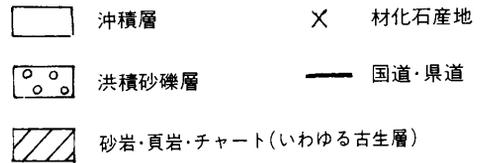
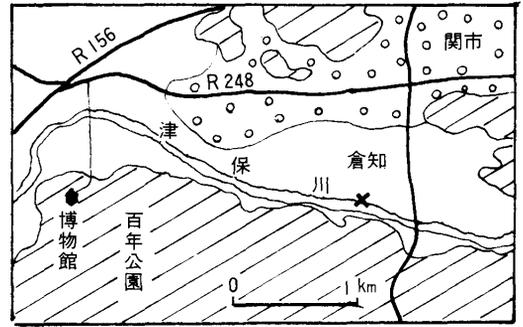


(材化石露頭現場)

今回の材化石については、発見の連絡を関市倉知の長岡哲夫氏に、年代測定に関してはすべて名古屋大学理学部の中井信之教授にお世話をいただいた。紙上をお借りして両氏に厚くお礼申しあげる。

(1) 関市倉知付近の地形と地質

この材化石の産出地点付近は第1図に示すようにこの地域の基盤をなす砂岩、頁岩、チャートなどよりなるいわゆる古生層（最近では中生層の可能性が大きい）が南側の山稜をつくって東西にのび、産出地点の150 m上流では直接津保川河床に



露出している。一方津保川の北側には関市の台地を構成する砂礫層が、基盤岩の残丘を埋めたてたようにアバットしている。これらの礫層は従来洪積層とみなされているが詳しいことは判っていなかった。地形的には倉知地区の久郷や熊ノ段などの村落は、下位の沖積段丘面上にあって現河床との比高は5 mある。その北方にはより上位の段丘面（洪積段丘、沖積面との比高7 m）がひろがっている。しかし倉知地区ではこれらの砂礫層の全体を視察できるような露頭はこれまでみられなかった。

(2) 材化石の産出層準

産出地点 関市倉知津保川河床

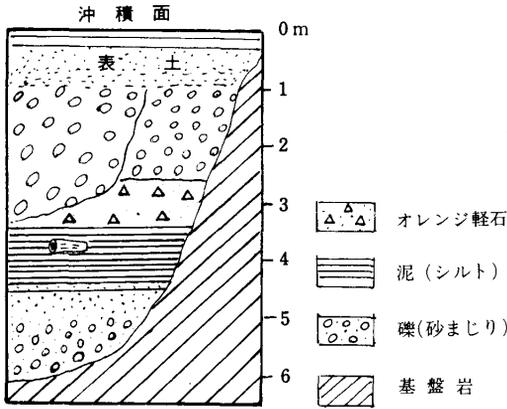
北緯 35度28分30秒

東経 136度53分50秒

沖積面からの深さ 4 m

材化石を包含する砂礫層は基盤の黒色頁岩を不整合におおって、産出地点付近では約8 mの深さを示す。この砂礫層の下部には約2 mの厚さの泥質層と、1 mあまりの鹿沼土状の軽石礫が密集する層をはさんでいる。このオレンジ軽石礫が含まれ、御岳火山の噴出物（Pm III層）として広範囲によく追跡されている（笠原1970）。津保川河床に露出する軽石層がこれと同一のものか否かについては後述する。材化石はこの軽石礫層の直下に少なくと

も3個以上含まれていた。この層準には有機物に富む泥質層がめだち、後述のような花粉分析結果も判明した。



第2図 地質柱状断面

砂礫層の礫は中礫と大礫が大部分を占めるが、巨礫も含まれている。比較的円磨されているが淘汰の程度はよくない。礫質はいわゆる美濃帯古生層の砂岩、頁岩、チャートが多く、次に流紋岩質岩、花崗岩などで、黒色ホルンフェルスも含まれる。

材化石自体も現地性を示す直立樹幹ではなく、どれも流木状を呈するものである。

このような点から砂礫層は全体として陸域(湖成)の堆積物と考えられる。

なお、この地点は翌年になって護岸堤防工事のため掘削されたので、露頭は完全に消滅してしまった。調査当時に判明した柱状断面を第2図にあげておく。

(3) 材化石の特徴と年代測定結果

採取した材化石は径80cm、長さ2mで付着した泥(シルト)を洗い落とすと赤褐色のきれいな表面をみせ、一見ケヤキ状の外観を呈する。その一部を樹脂液浸により乾燥による収縮破損を防止するための樹脂加工をテスト中である。

一方樹種の判定や材の放射年代測定は、名古屋大学理学部の中井研究室により進められ次のような結果が得られた。

材の種類 ニレ科エノキ属 (Celpis sp.)

落葉広葉樹で現在のケヤキなどの仲間

材の¹⁴C年代

中心部 32,770年 B.P

周辺部 31,780年 B.P

(付記)

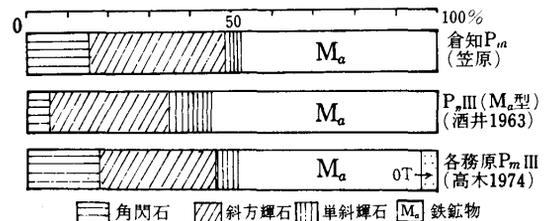
近年、材木の安定同位体比を測定して、材の生育当時の気候変動を推測できるようになった。そこでウルム氷期の亜間氷期における気温変動を知るため中井研究室では、この材化石を用いて、年輪別に水素および炭素の安定同位体比(D/H, ¹³C/¹²C)を測定中であり、近く終了する予定であるが、この結果から、ウルム氷期特に亜間氷期の気温及び気候変動が明らかにされるであろう。

(中井信之 名大・理・地球科学)

(4) 砂礫層(第四系)の時代

これまで関市付近の砂礫層に関する詳しい資料は知られていなかった。今回得られた材化石の年代測定結果から、これらの泥層や礫層は、少なくとも今から32,000年前より以降に堆積したことが明らかとなった。そしてこの時期がおそらく第四紀後半のウルム氷期の中でもゲトワイゲル亜間氷期といわれるころに当たり、海水準が上昇してこの付近が河川の下流域または淡水湖の環境にあったことが推定される。

一方材化石を含む泥層の花粉分析結果(下野1977)からもこの泥層の堆積した時代が、現在に似ているがやや冷涼であったことが推定され、この時期がウルム氷期極相(約2万年前)に至るより前であったと思われる。材化石がいわば沖積段丘堆積物中への二次堆積物ではないかとの疑いも全く否定できないが、材化石の新鮮な状態などからみても、また氷期特有のミツガシワ属の花粉が検出されていることなどの点を考えればその可能性は少ない。



第3図 軽石礫の重鉱物組成

なお、前述のオレンジ軽石層についての重鉱物分析結果は第3図のとおりである。各務原層に含まれる御岳火山P_mⅢのそれと比較してみると、酒井(1967)によるP_mⅢのM_a型に類似していることが判る。しかしM_a型とは角閃石が10%以上も含まれるという相違がある。またP_mⅢ層の絶対年代は約35,000年といわれているので、このオレンジ軽石層はP_mⅢ以後に堆積したと推定される。いまのところ近隣地域に類似する軽石層はP_mⅢ以外にみあたらないので対比などについては今後の課題である。

文 献

笠原芳雄(1970) 各務原層中のPumice について(静大地研報告2巻1号)

酒井潤一(1963) 木曾谷のローム層 (地球科学 67号, 68号)

下野 洋(1977) 津保川下流域の露頭とその教材化について (岐阜県地学教育 13巻)

高木信行(1971) 木曾川, 中段段丘の対比と形成に関する考察 (愛教大地理学報告) 36・37合併号 (学芸員 笠原芳雄)

3. 博物館学習をとり入れた

学校での自然保護教育

——環境週間にちなんだ校外学習の理論と実践——

(1) 自然保護教育の必要性とその内容

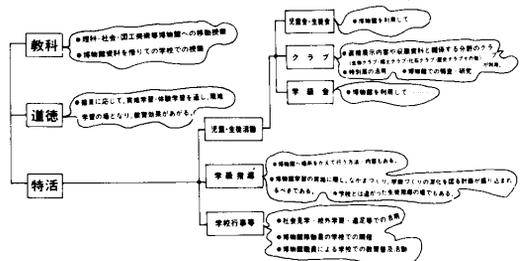
地球的規模での自然資源の枯渇・生態系の破壊が心配される今日、「自然保護」問題は国民的緊急課題として、家庭教育・学校教育・社会教育等あらゆる教育の場で、強力にとりあげられるべき教育内容である。その自然保護思想育成のためには、正しい自然観の確立が必要であり、その背景となる自然に関する正しい知識の普及と自然に接する望ましい態度の育成とが大切である。つまり、自然保護教育は、自然に興味と愛情・畏敬を感じさせるといった心情面、生物学・地球科学・地理学・歴史学・社会学等々の知識面、そして野外フ

ィールドにおける作法のしつけの面という、三本柱が平行して考えられるべきで、全人教育の一環として考えられる。

したがって、学校教育の中で扱える自然保護教育についても、自然のしくみへの知識理解がベースとなる理科・技術科等の領域、また人間の社会生活を考察する地理・歴史・政治経済の社会科等の領域、更に感性を育む芸術科、心の健康を扱う保健科と、教科についてだけでも多岐にわたり、学校教育体系の中に、どう位置づけ、どう組みこむかが大きな課題となっている。そこで、博物館学習をとり入れた学校での自然保護教育の一事例の実践報告をし、学校教育を援助する博物館のあり方の参考にしたい。

(2) 学校教育での博物館の活用例

博物館は、生涯教育の一端を担う社会教育施設ではあるが、学校教育を援助するという使命もっている。これまでは●教師自身が博物館などの文化施設について、その本質的な機能の理解不足、活用法の研究不足、●行き帰りの時間的な制約、●費用がかかる、●学習内容がピタリと一致していない等々の理由で、学校教育での博物館利用は十分ではなかった。博物館が、学校教育のあらゆる領域にかかわりをもてることを整理すると下図のようになる。



(3) 環境週間にちなんだ校外学習の実践

ある小学校から、環境週間にちなんで、学校行事としての博物館での学習の申し出があり、ねらいを絞った校外学習が計画された。博物館では、常設の自然展示室1, 2の中で、どこで、だれに、どんな自然保護教育ができるかの概要を次頁のように整理し、学校側の要望にこたえることにした。

小学校 1・2年生……自然展示室2 ㉒コーナー生物の系統

㉒ 郷土岐阜県内産の動・植物の多様さに直接触れ、変化に富んだ生物界への関心を高める。

3・4年生……自然展示室1 ㉑コーナーブナの原生林

㉑ 多種な動・植物も自然界では複雑に結びついていること、生物相互のかかりに目を向けさせ、生態的な見方の基礎を身に付けさせる。

5・6年生……自然展示室1 ㉔コーナー池沼の生物

㉔ 池沼をモデルにした生態系をもとに生産・消費・還元サイクル、食物連鎖とその中の量的関係に気づかせる。

中学校 1年生……自然展示室2 ㉑郷土の概況⑨植物

㉑ 郷土岐阜県の植物社会のようす、植物分布の特色に気づくとともに、現存種生、自然度を探みとり、岐阜県の自然の現状を把握する。

2年生……自然展示室1 ㉗森林の役割

㉗ 森林がもつ役割の数々に目を向け、人間生活とのかかりの幅を広げ、深さを探みとらせ特に職業放出面でのモデル計算を通して具体的に録の大切さをわからせる。

3年生……自然展示室1 ㉑イン石は語る⑭美山の動物たち

㉑ 郷土岐阜県を主にした大地と生物の変化をたどり、自然の歴史の概略をつかむとともに自然の構成員のひとりとしての人間の位置を考える。

ア. 3・4年生での実践例

ブナ原生林のジオラマを素材に、学年別、1クラス単位で、学芸員の指導で学習は進められた。館側で下図のような資料を作製配布し、3・4年とも同じものを使用した。指導過程で学年差をもたせ、その大要は以下のようであった。

(ア) 指導のねらい

- ・ 森の中の多種多様な生物は、食べる食べられるの関係で結びついていることに気づく。
- ・ 自然界の生物相互のつながりには、調和のあることに気づく。(4年生はここまで)

(イ) 指導過程 (40分授業)

ねらい	児童の活動	留意点
1. ブナ原生林の中に、いろいろな動物たちが住んでいることを確かめる。	1. ブナ原生林のジオラマを見ながら、どんな動物がいて正しい種名は決まなくても、大雑把に動物たちの住んでいるところを確かめ合う。	どんな動物がいて正しい種名は決まなくても、大雑把にどんな動物がいて、その観察が正しい種名へと導く。
2. 動物たちは、食べる食べられるの関係でお互いに結びついていることを確かめる。	2. 動物たちは、なにを食べて生きているか話し合う。ここでできるだけ多くの動物について、見本の関係でお互いに結びついているのは「ウサギは？クマは？」小鳥たちは？	できるだけ多くの動物について、見本させる中から、肉食の場合でも、どんな食をたどっているか、食物連鎖は？
3. 肉食動物にとっても、植物は食べられることのできる食糧であることをつかませる。	3. 肉食動物は、植物を食べても、クマは採ることができない食糧であることをつかませる。	植物であること、クマが採れること、肉食動物は植物に間接的に食糧を供給していることを導く。
4. 自然界の世界では、食べる・食べられる関係があり、肉食だけが人間を食すことがないことに気づかせる。	4. 田の畑では、農薬を撒いているのに、自然の中からは、農薬も使わないのに、なぜ肉食が人間を食すことがないことに気づかせる。	③3年生はここまで ④以下4年生は講う。 ⑤生態系に量的なバランスにまで深入りはしない。 ⑥動物のつながりも見させる。

自然の世界の動物たち植物たち



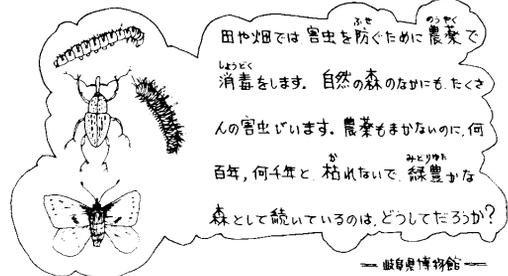
火の森のなかに、いろんな草木があり、たくさんの動物たちがいます。生物どうしのつながりのしくみを考えてみよう！

※動物たちは、なにを食べて生きているのでしょうか？

※クマは？ キツネは？ リスは？ ウサギは？ そして、小鳥たちは？

※わたしたち人間は、なにを食べて大きくなっていくのでしょうか？

※この地球上に、草木がひとつもなから

田や畑では、害虫を防ぐために農薬を撒きます。自然の森のなかに、たくさんの害虫がいます。農薬もまかないのに、何百年、何千年と、枯れずに、緑豊かな森として残っているのは、どうしてだろうか？

(ウ) 指導を終えて

我が国では、一般はもとより学校教育にも、博物館はまだまだなじまれていない。それだけに、博物館側の積極的な学校教育への援助策についても考慮されなくてはいけないし、教育現場の先生方の博物館に対する理解も望まれる。どのような形での博物館利用であっても、事前打合わせを十分に行ない、博物館側としてはこれだけのことができる。学校側としてはこれだけのことを望みたい。それを出し合い、学校教師、博物館学芸員両者合作の指導計画がつけられるべきであるし、理想的には、学校教師自身が、展示内容等についても熟知し、現場での指導に当たるのがより教育的であろう。

いずれにしても、実践例も少なく、やっと走りだしたばかりの当館であるだけに、今後教育現場の諸先生方との密接なつながり、援助をいただく中で、学校教育に役立つ博物館事業活動のあり方を探究していかなければならない。

(エ) 学習後の児童の作文より

博物館学習の事後指導として、環境週間にちなんだ作文が課せられ、学校ぐるみで環境週間作文募集に応募されました。

「環境週間入選作品」

自然を大切にしよう

県内M小学校 B子

4月19日、3・4年で遠足に、せきのはくぶつかんへ行きました。そして一階の所で自然を大切にすることを、はくぶつかんの先生に教えてもらいました。クマタカは、テンを食べ、テンは、ネズミを食べ、ネズミは木の実、そして、だんだんたどっていくと植物を食べていることになります。わたしは植物は、大切だなあと感じました。わたしたちや、動物たちはみんな、植物を食べています。一番大切にして、育てていきたいと思います。

ミミズは、土からとり出してはいけないと先生に教えてもらいました。ミミズは土の中にあなをあけるので空気がよく通るようになり植物がよく育つのです。

遠足の帰りにとおった所では、山にコンクリートがかぶせてあったので、みんなびっくりしました。どしゃくずれにならないように、コンクリートがはってあるんだそうです。でもコンクリートをはっても、どしゃくずれがあって、コンクリートがおちてくるそうです。わたしは、山がかわいそうだと思います。そして、山にいる動物や草や木もかわいそうだと思います。

山に木がないと、雨の時、どしゃくずれがおこりやすいとききました。なんでかというと、木があると、木が水の流れおちるのを、ふせいでくれるからです。うまくできていると感心しました。

山に木がなかったら小鳥や動物たちが死んでしまいます。だから木を切るのを、やめた方がいいと思います。

町は、すごいこうがいです。工場のないわたしたちの村では、車のこうがいしかありません。町は工場があるし、車も通っているのでいろいろなこうがいがあります。町には、住みたくないなあと思いました。

わたしは、いき物をかわいがるだけじゃなく、木を育てるとかいろいろかわいがったり育てていきたいと思います。

こないだ、じゃがいもをうえていた時、土を、おこしていたらミミズがいました。かぶと虫のよう虫もいました。そして、男の子たちが、

「あっ、かぶと虫のよう虫だ」

といました。女の子たちは、

「ここにかぶと虫のよう虫いるよ」とか

「キャー、ミミズ」

といました。先生が

「ミミズを土の中に入れてあげなさい。」

とおっしゃいました。そしてうめてあげました。

わたしは、自然は、大切だと思います。

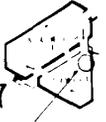
(学芸員 小野木三郎)

イ. 人文部門

- No.1 土器のないくらし
 2 土器をつかうくらし —貝塚—
 3 土器をつかうくらし —縄文土器—
 4 郷土のあけぼの —すまい—
 5 石器について
 6 信仰石器
 7 釣手型土器
 8 合口甕棺
 9 弥生式土器
 10 銅 鐸
 11 古鏡のなまえ
 12 内行花文鏡
 13 三角縁神獣鏡
 14 五鈴鏡
 15 陽徳寺1号墳 —資料紹介にあたり—
 16 " —古墳について—
 17 " —子持須恵器—
 18 " —須恵器と自然釉—
 19 " —須恵器とろくろ—

ここをじっくり

NO.7



○土器をつかうくらし
 土器は その用途によっていろいろな形があるが、今回は、かわった形の土器の一つ「釣手型土器」について考えてみましょう。

この土器は、縄文土器のうちでも特殊な器形で、縄文時代中期中部・東奥地方で土器の文様が密着化されてくるころにあらわれます。

形は、(A) 釣手が弓状に土器の上に横となつてまたがるもの。(B) 三方から頂点にあつまるもの。(C) 十字形の種となるもの。などの種類があります。



さて、これは何に使つたのでしょうか？
 まだ「これだ！」という決め手はありません。

ただ次のようなことが条件として考えることができます。
 (1) 釣手や口縁の周りに細いひもをおす小あなやひもかけがあるので、つりさけて用いたのではない。
 (2) 土器の内底や釣手の裏にヌスのこびりついたあとのあるものが多いので、このなかでなにかを煮やしたのではない。
 (3) 一帯決壊遺跡中からの出土数は1~2点で、住居跡中の中央のあたり広場と思われるところの大型住居跡の入口付近から発見される例が多い。
 「さあ みなさんでこのなぞときにチャレンジしてはいかがでしょうか。」

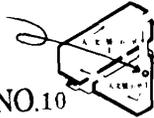
※これまでの考え

- 1 ありかとして用いた (照灯器具)
- 2 香炉として用いた (おまつりの神具)
- 3 虫を退けらうとして用いた (防虫神具)

岐阜県博物館 人文展示室1

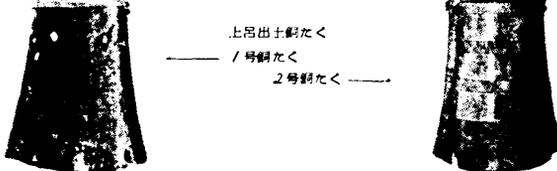
ここをじっくり

NO.10



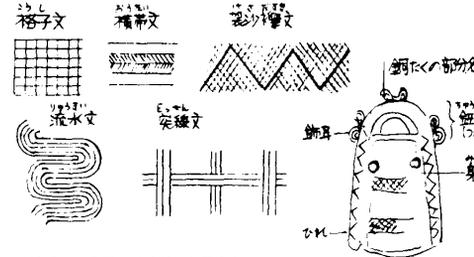
銅たく(鐸) についての7つのなぞ

- 1 銅たくほどの地域で発見されるか
 調査が近畿地方で発見されているので日本製品と考えてよいでしょう。分布は、近畿を中心にして東は福井・長野・長野、西は鳥根・広島・高知の各県に東西の限りをもっています。
- 2 岐阜県ではどこで発見されているか
 現在、確認されている出土地は4カ所。弥生時代の遺跡分布表(パネル)で調べてみよう。
- 3 銅たくはどんな材料でつくられているか
 比較的錫の含有量の少ない青銅で出来ています。日本に多くない材料ですから、中国(周時代)の銅器などで調なおしてつくったと思われる。
- 4 銅たくの発見場所はどんなところか
 弥生時代の住居跡からは発見されていません。住居から離れたところ、平野に近い丘陵・山腹斜面などに立てて埋められています。
- 5 銅たくは何に使われたのか。
 最初のものには舌などがあって、ぶらさけてたくと「チーン」という音もきいた音も聞かれます。だから、楽器として使うこともできたことでしょう。金匱書に聞いたことのない弥生時代の人びとは、この音を耳にできない音として驚きとおそれをいだけせ、神の声と感したでしょう。
 これが、銅たくを見ただけで神がかりするようになると、楽器としてでなく、神を呼びだしたり又は神そのものとなってお祭りや儀式(稲作祈願や、社(やしろ)の神などを中心とするムラのシンボル(宝器))として使われたのではないのでしょうか



6 銅たくにはどんな種類があるか

つけてある文様によって分類します。文様には下に記したものが代表的ですが、身に調出された文様で呼び名をつけています。



7 岐阜県にある銅たくはどんな種類か

出土地のわかっている銅たくは3点で、全部菱文です。人文展示室1にある3点の銅たくをじっくり観察して、東の時代の遺物の美しさを味わってください。

(説明)

- 1 可児郡久々利 出土の銅たく
 江戸時代(1733)に同地の丘陵を開墾中に発見された。1/1cm・高さ2.6cm。つまみの外縁には、3個の鈴舌があったようで非常に立派な銅たくです。
- 2 益田郡萩原町上出土
 旧萩原町(現萩原町)の敷設工事(1927)に発見されました。同町の東部丘陵に2帯がかさなるようにして発見されたといわれています。文様は、1号銅たくに似ていますが全体の形がよくととのった美しい器です。
 1号銅たくは、つまみの部分に唐弧文がみられるし、2号銅たくは鏡面後にひからつまみにかけて縁をノコギリ状に加工していることが目立ちます。

久々利 出土銅たく



岐阜県博物館 人文展示室1

(4) アンケートの結果（自然部門）

岐阜市中学校理科研究会が本館で開催されたとき、「ここをじっくり」の№1、6、9、13の4部をお渡しして展示室を見学していただいた。見学後、下記の質問に対し、自由な文章記入でアンケートを求めました。教育現場の中学校理科教師の方々の御意見が聞かれました。

質1 特定コーナーごとの手引きとして、どんな点で参考になりましたか？

- ・自然のおいたちなど、地質時代の長さは、展示だけ、あるいは数字だけの説明では実感的にとらえにくいですが、こうしたカレンダー式の手引きがあると生徒にもわかりやすい。
- ・見るポイントがはっきりわかり、大変おもしろい。
- ・ひとつのまとまりがあり具体的に理解しやすい。
- ・おもしろいアイデアです。中学生ぐらいには、順を追って考え、書きながら進む作業方法もと入れたいかがでしょうか。
- ・順次どんどん発行され、参観者には必要に応じていつでも配布されるとよいと思います。

質2 扱っている内容の質・程度について、どう感じられましたか。

- ・中学生ならば、十分理解できるもので好ましかった。
- ・ひじょうに役立つものと感じたし質もいいですね。
- ・中学生よりや、高度、高校程度かなと思われた。ぐーんとやさしいものもほしいです。
- ・中学生程度で、そのまま授業に使えるように思った。また見学の補助資料として大いに利用できそうで、早く全コーナーが発行され、本にでもなれば……と楽しみにしています。
- ・主題が同じでも、見学者の程度（学年に応じて）によって、内容を変えるべきではないか。深みが変わると思います。
- ・狭い範囲でもよいから、もっと深みのあるものもふやして行ってほしい。

以上、同じような内容のものは重複をさけ、ちがった立場の意見のみを列記したが、圧倒的に好意的な意見が多く、批判の声は少数であった。

今後は、更に実践を続けるとともに、あらゆる方面からの声を集約しつつ、内容・方法等での改善・改良点を見つけ出していく必要がある。アンケートの声にもあるように、見学者の自主的創造的活動にそのような方向への発展を考える必要がある。そのためには、まとまりのある学習課題を多種多様に設定して、展示室内の見学を基盤として、図書資料室、郷土学習室、あるいは収蔵庫の標本資料の利用等もおり込んだ自主学習過程、モジュール方式による学習の手引きの教材開発もひとつの方向である。学校の教科学習とはちがったねらい、ちがった内容でのモジュールの開発こそ、博物館のかかえているひとつの大きな課題であろう。

5. 植物分布報告

★ミカワバイケイソウ

Veratrum stamineum Maxim.

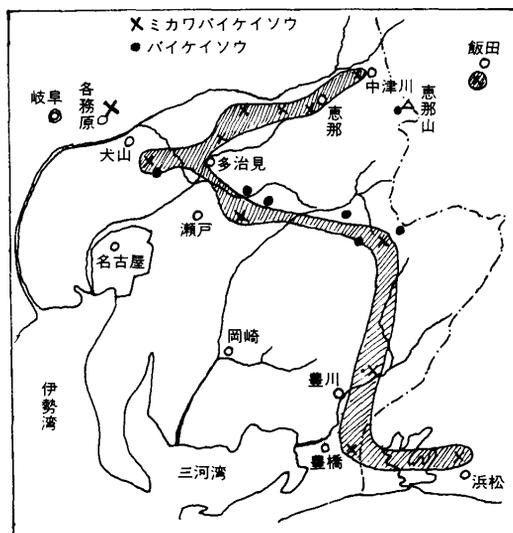
var. *lasiophyllum* Nakai の新産地

愛知県の三河地方、有明湿原をタイプロカリティとするミカワバイケイソウは、高山生のコバイケイソウの変種で、母種に比べて低地平原産で、井波一雄氏の長年の調査結果、その分布域は、愛知県東部から、犬山市入鹿池畔、尾張富士の山麓、更に本県内東濃山地にもわたることが明らかにされた。（岐阜県の植物、1966年、P.36～37）

これまで、木曾川を越えた北側の分布は知られていなかったが、各務原市各務洞地区で採集した標本を、井波一雄氏に同定していただき、ミカワバイケイソウであることが判明したので、新産地として報告する。

やはり東濃から南部へ、愛知県矢作川沿岸までに限って野生しているシデコブシ（*Magnolia stellata* Maxim.）は、これまで木曾川より北側の分布は知られておらず、岐阜県の植物 P.58のシデコブシの分布図によると、愛知県犬山市が分布の北西限になっていた。これが、犬山市とは木曾川をへだてた北側の、各務原市北部を東西に走る里山地帯の谷筋に点々と分布している。ミカワバイケイソウの産地は、そうしたアカマツ林を主

とした洞地区の里山の谷筋で、亜高木層にシデコブシ、低木層にイヌツゲの多い湿地である。



ミカワバイケイソウの分布 (岐阜県の植物、井波一雄原図より)